



# 取扱説明書

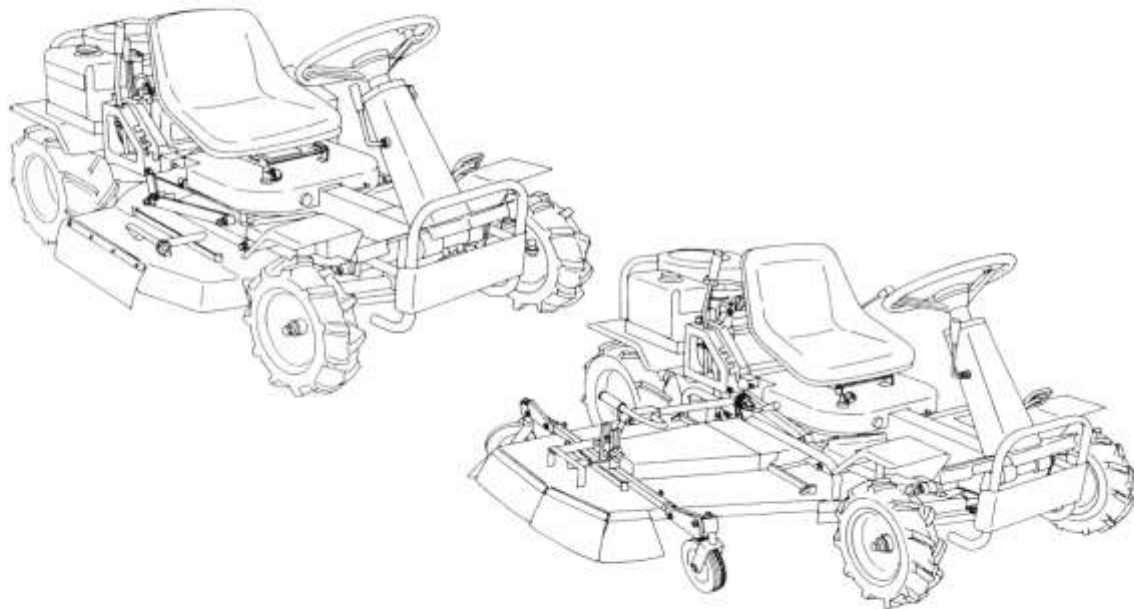


当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。お読みになった後も必ず保存してください。

機種名

**MPM-950H**  
**MPM-1350H**

## マメトラパワフルモア



**マメトラ農機株式会社**

# はじめに

マメトラ乗用草刈機をお買い上げいただき  
ありがとうございます。

この取扱説明書は「マメトラ乗用草刈機」の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき、最良の状態でご使用ください。

お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。

製品を貸与される場合は、この取扱説明書を添付してお渡しください。取扱説明書を紛失、汚損された場合は当社または当社の特約店に連絡してください。

なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。


ご不明のことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお近くの特約店・販売店にご相談ください。


本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。


なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

## ◆注意表示について

本取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

 **危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# サービスと保証について

## ☆保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。  
お読みになった後は大切に保管してください。

## ☆アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社営業所までご連絡ください。

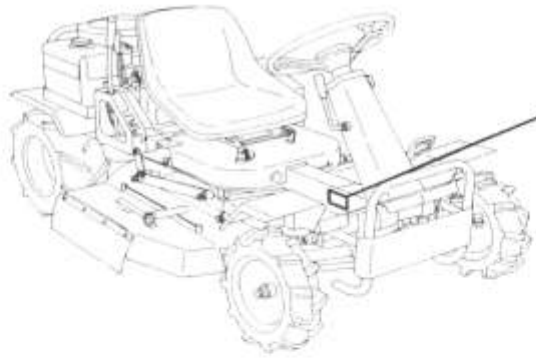
連絡していただきたい内容

- 型式名・区分
- 機体番号・エンジンの場合エンジン番号
- 故障内容（できるだけ詳しく）

## ☆補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、納期および価格についてご相談させていただきます。



[例]

農業機械の種類	乗用草刈機
型式名	MPM-950H
区分	
エンジンの型式	294-777
機体番号	051001
製造・販売元	マメトラ農機株式会社

(参考例)

## ☆取扱説明書について

本機取扱説明書を紛失・破損した場合コードNo.137,5001,000でご注文ください。

# 目次

1	安全作業のための心得	2
2	安全標識貼付位置	4
3	各部の名称とはたらき	8
4	作業前の注意	10
5	操作方法	11
5-1	エンジンの始動方法	11
5-2	エンジンの停止	12
5-3	緊急時の停止装置	13
5-4	座席の移動	13
5-5	ハンドル高さ調節	13
5-6	運転	14
5-7	ダンプバルブ（エンジン停止時の機体の移動）	14
6	作業方法	15
6-1	圃場条件の確認	15
6-2	周囲の安全	15
6-3	草刈作業	16
6-4	トラックへの積降し方法	21
7	作業後の点検・整備	22
1.	シート台内部の清掃	22
2.	ベルトカバー内の清掃	23
3.	エンジンオイルの交換	24
4.	油圧オイルの交換	25
5.	注油	26
6.	グリス	26
7.	エアークリーナーの手入れ	27
8.	バッテリーの点検	28
8	主要部の調整	30
1.	走行ベルトの調整	30
2.	刈取クラッチベルトの調整	30
3.	ベルトの交換要領	30
4.	刈刃の交換要領	34
5.	駐車ブレーキの調整	35
6.	刈刃ブレーキの調整	35
7.	チェンジレバーの調整	36
9	格納のしかた	37
1.	本機の清掃、洗浄、注油	37
2.	オイル交換	37
3.	ガソリンの抜き取り	37
10	特長	38
11	仕様	39
●	エンジン	40

# 1 安全作業のための心得



1. 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないでください。
2. 適正な帽子・防護メガネ・作業衣を使用し、衣服の一部や頭髪・手拭きが巻き込まれないようにしてください。
3. 作業前には常に正常な機能が発揮できるように各部の点検整備に心掛けてください。また、作業後にも、次の作業のために点検整備を実施してください。
4. エンジンを始動させる場合は、チェンジレバーを中立にしてから、クラッチペダルをいっぱい踏み込み、キースイッチをSTART（始動）方向に回してください。
5. 足元に充分注意し、カバーの内側へ足等を入れないようにしてください。
6. 移動発進する時は、必ず刃の回転は止めてください。変速は1速から順次おこない、急発進はしないでください。
7. 作業中は機械の周囲に注意し、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないでください。特に、子供やペットには注意が必要です。
8. バック作業時には後方に注意してください。また、棚下作業や枝下作業の際は、頭上に注意してヘルメットの着用をしてください。



9. 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、マフラーが冷えてから、こぼさないようにおこなってください。こぼしたらきれいにふき取ってください。  
火気は厳禁のこと。



10. マフラーは非常に高温になりますので、絶対に触れないでください。また、機械におおいをかける場合は、高温部が冷却した後でおこなってください。
11. 傾斜地、畦畔の横断、軟弱地の通過及び旋回時には転倒に注意してください。傾斜地は15度以上は危険ですから、無理な作業はやらないでください。
12. 補助ローターを上げたままでの作業は危険ですからしないでください。  
(MPM-1350H)
13. 機械の点検整備や、草の巻付けの除去の際は、必ずエンジンを止めてからおこなってください。
14. 機械を他人に貸すときは取扱方法をよく説明し使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。
15. この草刈機は一般道路の走行は禁止されております。又、ライトが付いていないため夜間作業は禁止してください。

## 2 安全標識貼付位置

警告ラベルが汚損したり、はがれた場合は  
お買い上げの販売店に注文し、必ず所定の  
位置に貼ってください。

**▲ 注意**  
カバーの取り付け、取り外し  
は、必ずエンジンを停止して  
行うこと。

8MA,0518,000

### 安全停止機構

刈取クラッチレバーが 入 の状態で  
シートから腰を上げると、エンジンが  
自動的に止まります。  
《注意》通常のエンジン停止はキー  
スイッチで行ってください。

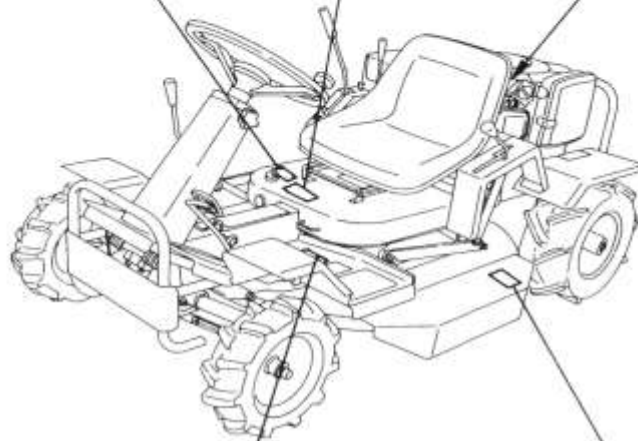
137,0921,000



**危険**

- バッテリーは引火性ガスを発生するので火気厳禁のこと。
- バッテリー液は有毒なので取り扱いに注意すること。  
バッテリー液が身体や衣服に付いた時は、着衣に染み  
まで洗い流して下さい。
- バッテリー液を補給するときは、液面レベル上蓋を越え  
ないようにすること。
- バッテリーが放電して、セル回転が止まった場合は、  
必ず全充電する前に補充電を行ってください。

8MA,0519,000



**ステップ**



8MA,0509,000

**▲ 注意**

**乗降時足乗せ厳禁**

機体左側のステップを使用のこと

8MA,0504,000

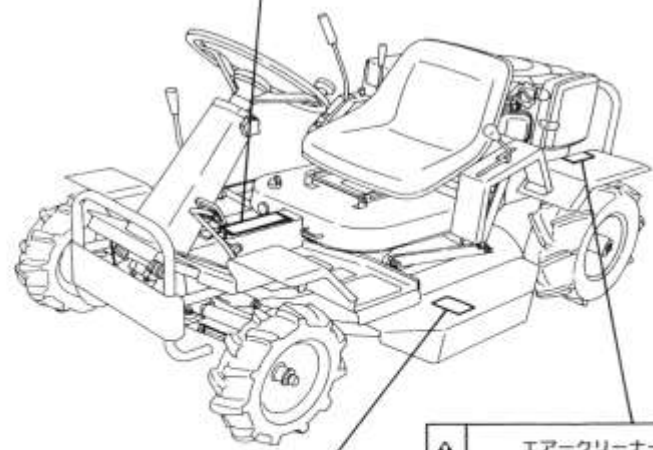
MPM-950H



**安全に作業をする為に次のことがらを必ず守って下さい**

- 使用前に取扱説明書を必ず読んで、よく理解して下さい。
- 刈り刃によって飛散する恐れのある小石や木片等の異物は作業前に取除いて下さい。
- 作業範囲内に人や動物を近寄らせないで下さい。
- タレゴム、カバー等の防護装置を取り外したままで作業しないで下さい。
- 点検、整備や清掃、洗車の際には、必ずエンジンを停止して下さい。

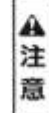
BMA.0515.000



**足下危険**

- 運転中はカバーの下に手や足を入れないこと。
- 刈り刃の点検や交換はエンジンを止めて行うこと。

BMA.0517.000



**エアークリーナーの取り扱い**

常に汚れを清掃してください。エレメントが目詰まりしますと、予備空気状態になり燃料消費が多くなったり、パワーが弱くなりエンジントラブルの原因になりますので、汚れがひどくなったら早めに交換してください。

BMA.0505.000



内はともするので、エアークリーナーに近づかないこと。  
室内燃焼の集積所で使用しないこと。

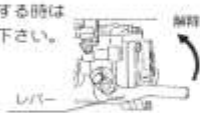
BMA.0001.000



**注意**

- エンジンを掛けないで機体を動かす場合は、ミッション左側のシャフトにレバーを差し込み、上へ持ち上げながら行って下さい。

- エンジンを始動する時は、レバーは外して下さい。



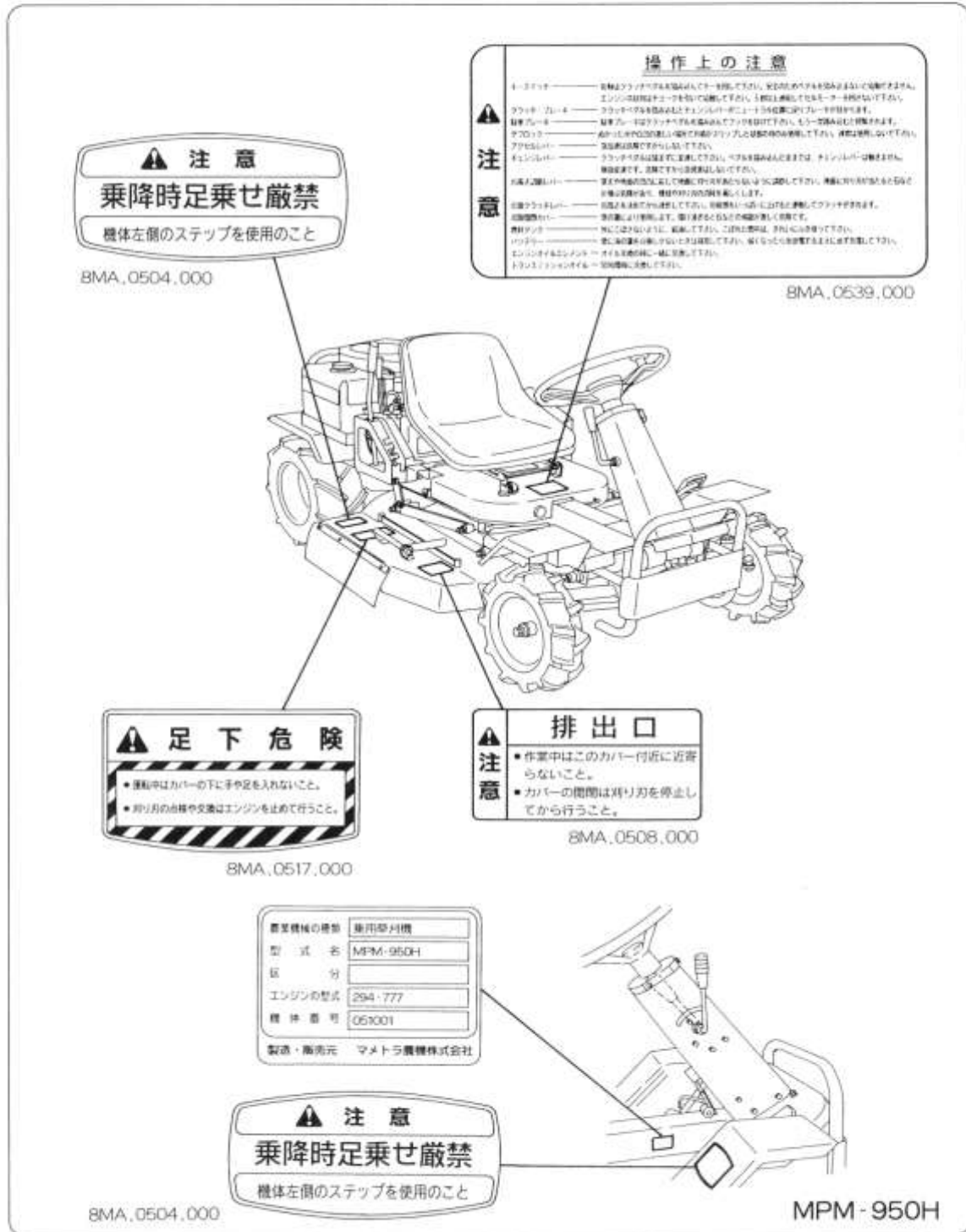
BMA.0540.000

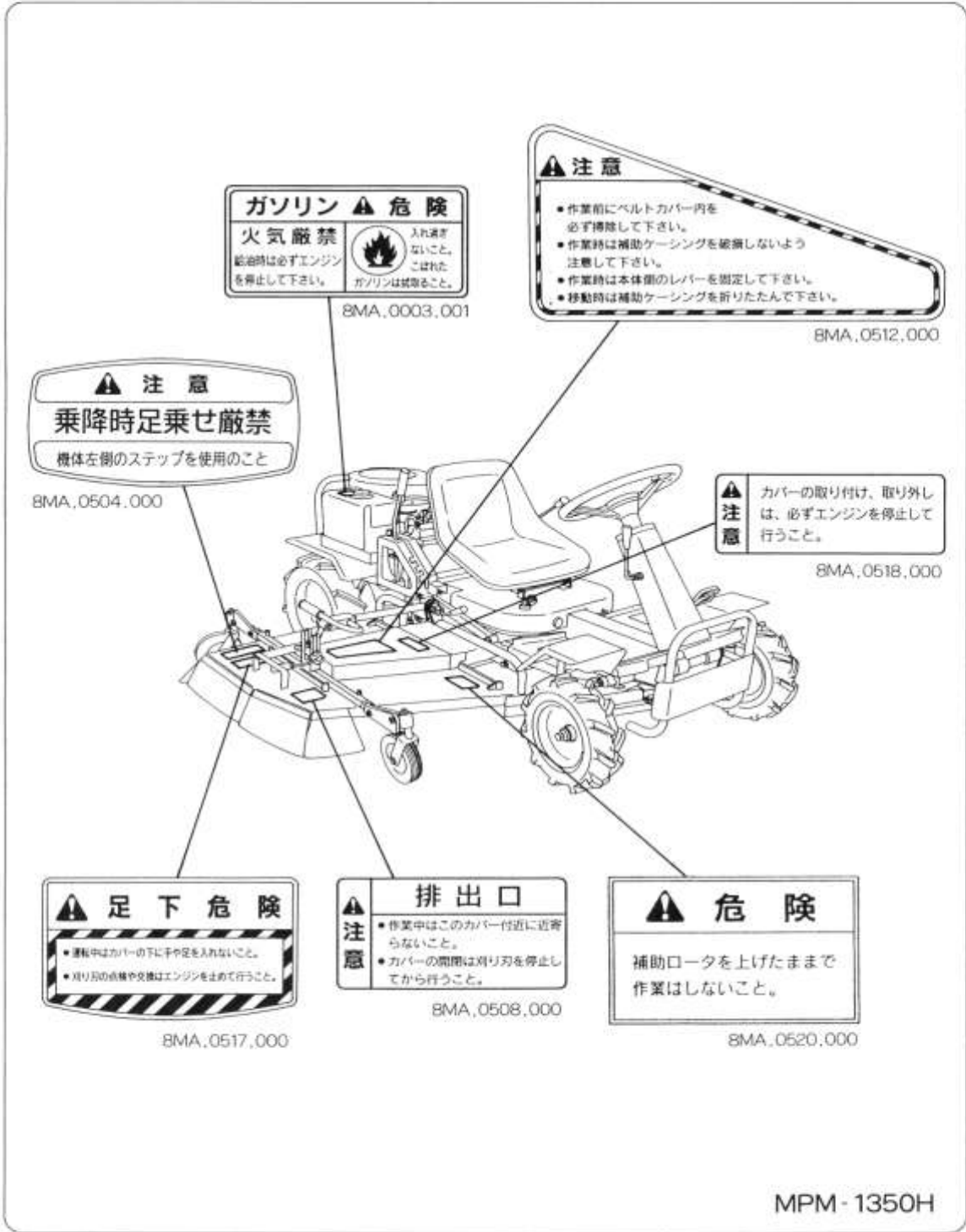


MPM-950H



## 2 安全標識貼付位置





**ガソリン 危険**  
**火気厳禁**  
 入れ過ぎないこと、こぼれたら必ずエンジン停止して下さい。  
 ガソリンは可燃物です。

BMA,0003,001

**注意**

- 作業前にベルトカバー内を必ず掃除して下さい。
- 作業時は補助ケーシングを破壊しないよう注意して下さい。
- 作業時は本体側のレバーを固定して下さい。
- 移動時は補助ケーシングを折りたたんで下さい。

BMA,0512,000

**注意**  
**乗降時足乗せ厳禁**  
 機体左側のステップを使用のこと

BMA,0504,000

**注意**  
 カバーの取り付け、取り外しは、必ずエンジンを停止して行うこと。

BMA,0518,000

**足下危険**

- 運転中はカバーの下に手や足を入れないこと。
- 刈り刃の点検や交換はエンジンを止めて行うこと。

BMA,0517,000

**注意**  
**排出口**

- 作業中はこのカバー付近に近寄らないこと。
- カバーの開閉は刈り刃を停止してから行うこと。

BMA,0508,000

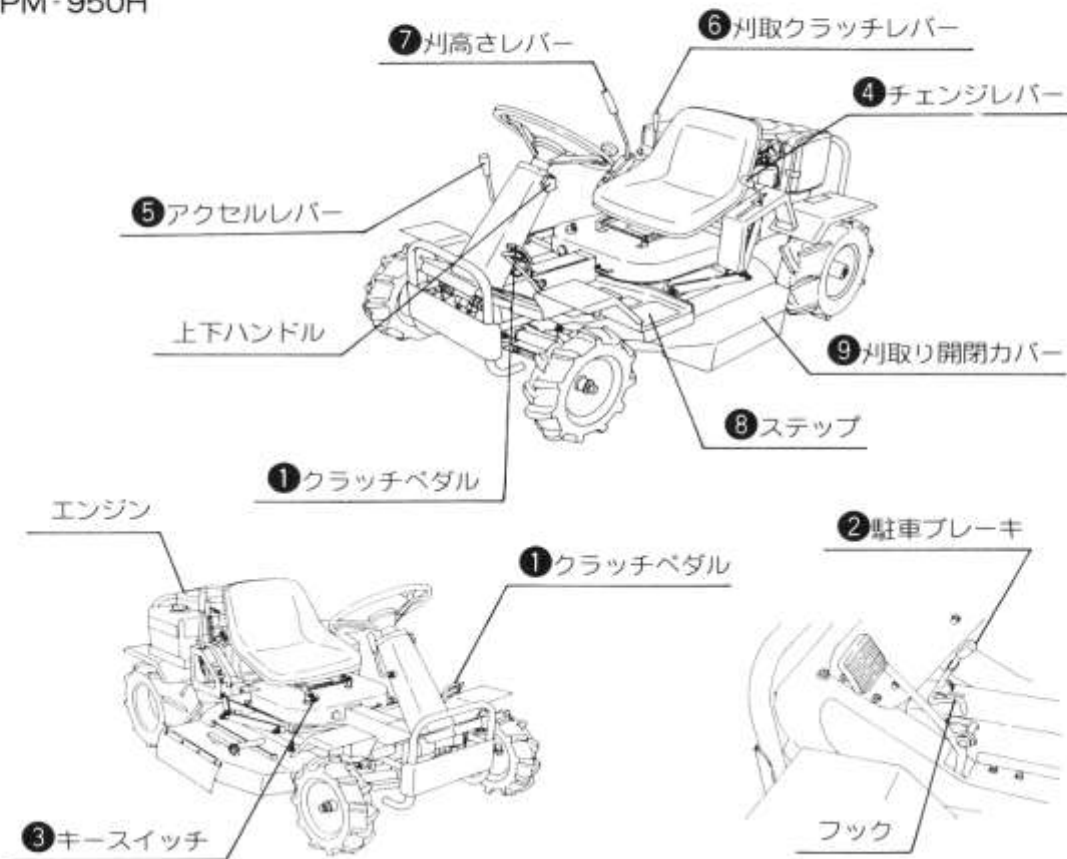
**危険**  
 補助ロータを上げたままで作業はしないこと。

BMA,0520,000

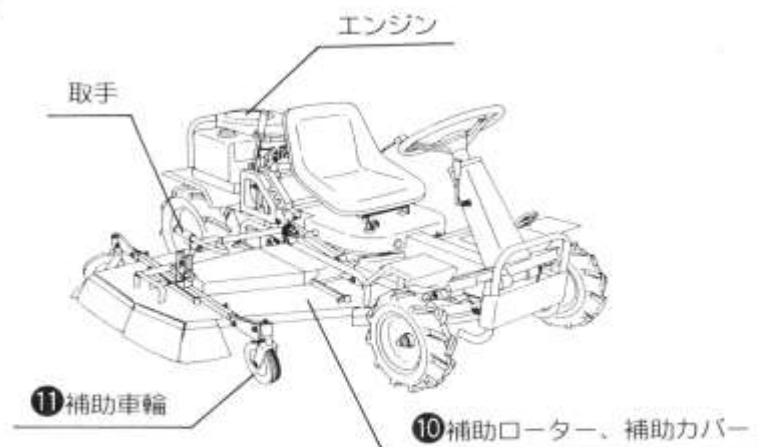
MPM-1350H

### 3 各部の名称とはたらき

MPM-950H



MPM-1350H



### ①クラッチペダル

左側のペダルを踏みみますとチェンジレバーが自動的に「中立」位置に戻りますので操作が簡単です。

### ②駐車ブレーキ

左側のペダルをいっぱいこ、踏み込みフックをかけてください。駐車ブレーキとなります。解除はブレーキペダルをもう一度踏みみますとフックが外れます。

### ③キースイッチ

座席右前方下にあり、時計方向に回します。左が「OFF (停止)」、次が「ON (運転)」、右が「START (始動)」位置です。始動したら手を離しますと「ON (運転)」位置へ戻ります。

### ④チェンジレバー

前進後進はHST無段変速で圃場条件に応じた任意の速度が選べます。

### ⑤アクセルレバー

アクセルレバーを手前に引きますとエンジンの回転が上がり、レバーを戻しますと回転は下がります。

### ⑥刈取クラッチレバー

1. 前に倒しますと刈取クラッチ「入」位置となり、元に戻しますとクラッチ「切」位置となります。
2. 刈取クラッチは刈高さレバーが「走行」位置では入りません。

### ⑦刈高さレバー

1. 刈高さの調節をおこない一番上が「走行」位置で1~3段の調節ができます。
2. 刈高さは「3」位置で地上高10mm以上になるように調節ボルトを固定してください。
3. 刈高さが低いと土を削るようになり、飛び石が多く刈刃の破損や摩耗、ベルトの摩耗や早期切断となり機械の損傷も早くなります。

### ⑧ステップ

機械へ乗り降りの際使用する。

### ⑨刈取り開閉カバー

草の量に合わせて調節します。通常は下げたまま使用してください。

### ⑩補助ローター、補助カバー (MPM-1350H)


- 樹の根元や廻り、枝下作業ができるよう右側に補助ローターを設け、偏芯500mm、作業幅1350mmと広がっています。
- 補助ローターの折りたたみは、2ヶ所のクランプレバーを緩め取手をいっぱい持ち上げてからクランプレバーを締めてください。
- 補助ローターを上げたままでの作業はしないでください。


### ⑪補助車輪 (MPM-1350H)

補助車輪の前後の位置はノブの締め付けで行えます。草の排出状態に合わせて車輪位置を調節してください。又車輪高さも確認してください。左右の刈り高さが同じになる様にボルトを緩めて高さ調節をしてください。

## 4 作業前の注意

作業前には必ず次の点検をおこなってください。

 <b>危険</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>★燃料補給時はくわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと火災を起す危険があります。</li><li>★エンジンが熱い間は注油、給油は絶対にしないでください。ヤケドや火災のおそれがあります。</li><li>★燃料を補給したあとは、燃料キャップを確実に締めこぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。万一引火した場合ヤケドや火災のおそれがあります。</li></ul>
--	--

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>★点検整備を行うときは必ずエンジンを停止させ過熱部分が冷めてから行ってください。</li><li>★点検整備を行うときは平坦で安定した場所で行ってください。さもないと思わぬケガをするおそれがあります。</li></ul>
--	--

※安全で快適な作業を行う為には本機を使用する前に必ず仕業点検を行い異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

- エンジンオイルは入っておりません。オイルの入れ方及び量の確認は、24、25頁を参照
- 梱包及び輸送の関係でバッテリーに液が入っておりません。開梱したら付属のバッテリー液をバッテリーに注入してください。28頁を参照
- HSTミッションの油圧オイル量の点検はリザーバ(油タンク)のFULL.COLDの表示ラインに油面があることを確認してください。なお点検は油圧オイルが冷えた状態で行ってください。
- 接続ホース及び継手等から油圧オイルが漏れていないか点検してください。
- 各作動部へ注入やグリスアップをし各部が正しく作動する事を確認してください。
- チェンジレバー、刈取クラッチレバー、アクセルレバー、チョークレバー、等の各レバーが正しく作動する事を確認してください。
- 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検し10～20時間で各部の増締めをしてください。
- 刈刃(ナイフ)の点検、刃のこぼれ、摩耗に注意し早めに交換してください。

## 5 操作方法



### 警告

- ★エンジンをかけるときや作業中は他の人を本機に近づけないようにしてください。さもないと思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- ★エンジンをかけるときは本機の廻りに物を置かないでください。ローター(刃)が回転した時、接触した物を飛ばすおそれがあります。
- ★エンジンの暖機運転は閉めきった室内では行わないでください。さもないと排気ガス中毒の原因になります。

### ■ 5-1 エンジンの始動方法



### 注意

- ★廻りの安全を確認してください。排気ガスのたまり易い所では換気に注意してください。

☆エンジン関係の詳細は40頁を参照してください。

- ① チェンジレバーを「中立(N)」位置にします。
- ② 刈高さレバーを「走行」位置にします。
- ③ クラッチペダルをいっばいに踏みブレーキが効いてる状態にします。
- ④ 寒い時はチョークレバーを「引」き、アクセルレバーを「中間」位置まで引きます。
- ⑤ キースイッチを時計方向に回し、「ON(運転)」、「START(始動)」位置へ廻し始動したら手を離しますと「ON(運転)」位置へ戻ります。

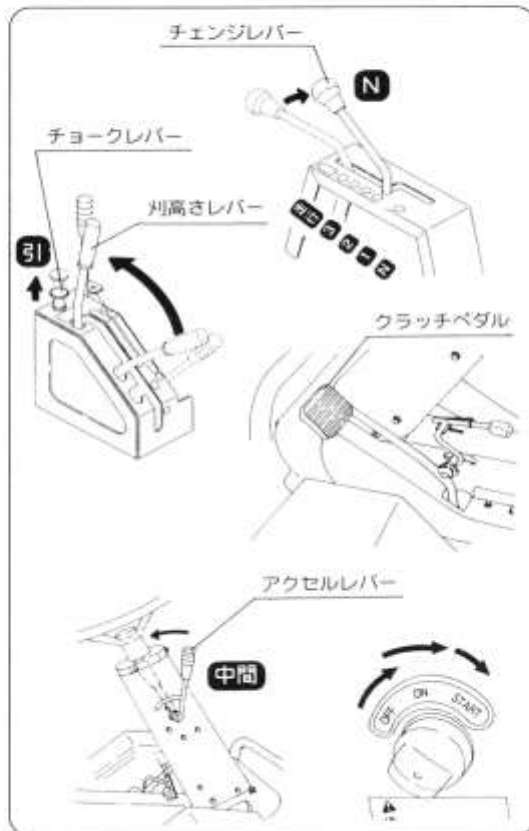


図1

## 5 操作方法

### ■ 5-2 エンジンの停止



★刈取クラッチを切っても刈刃は慣性で回転しています。刈刃停止を確認して降りてください。

- ① アクセルレバーを戻し、エンジン回転を下げます。
- ② クラッチペダルを踏み込み、駐車ブレーキを掛けます。
- ③ 刈取クラッチを切り、刈高さレバーを「走行」位置にします。
- ④ キースイッチを左へ回して「OFF (停止)」位置にすると停止できます。

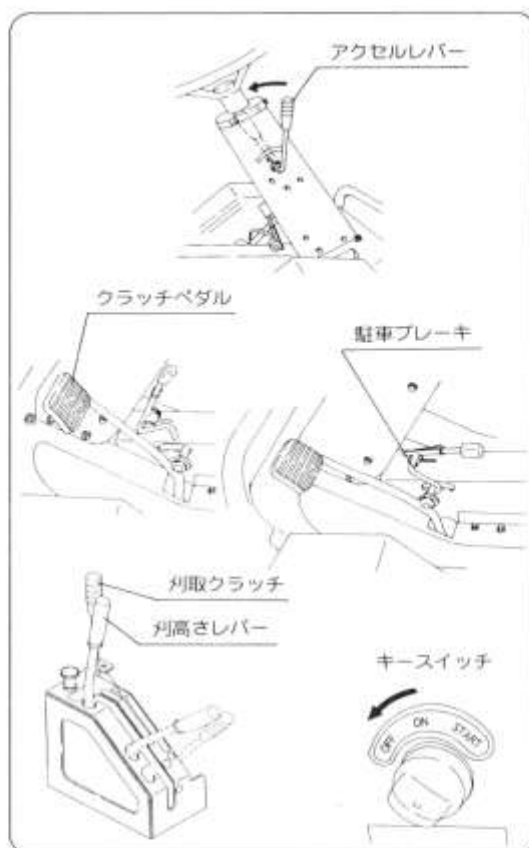


図2

### ■ 5-3 緊急時の停止装置

判取クラッチ「入」位置の状態で座席を離れますと、エンジンが停止する安全装置が付いております。エンジン停止後は必ずキースイッチを「OFF(停止)」位置にしてください。

(図・2)

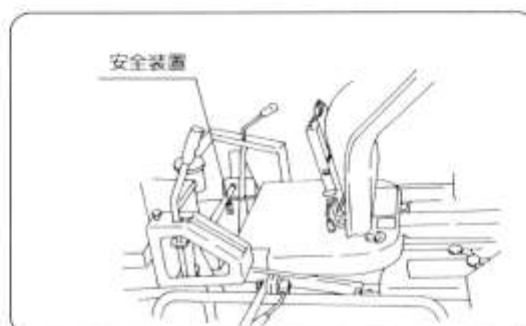


図3

### ■ 5-4 座席の移動

運転者にあわせて座席の移動ができます。座席移動レバーを上を持ち上げ、適正な位置へ座席を移動してレバーを離してください。

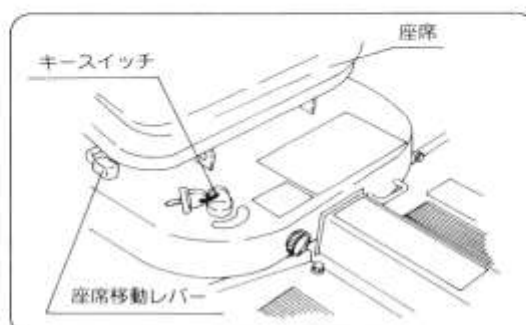


図4

### ■ 5-5 ハンドル高さ調節

運転者にあわせてハンドルをあわせる事ができ、常に楽な姿勢で運転ができるようになっています。高さの調節はノブの締付けによりできます。

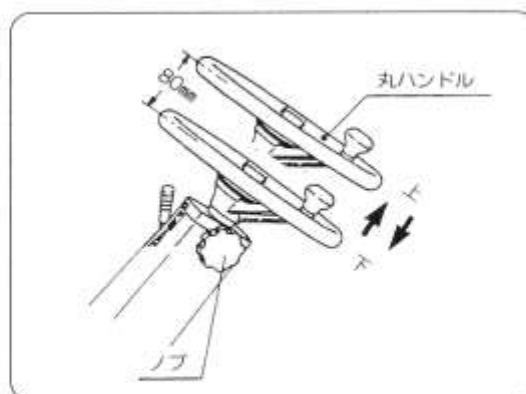


図5



## 5 操作方法

### ■5-6 運転

発進時は1速から順次2、3速走行へ移動してください。尚、アクセルレバーも「中間」位置より発進し、安全運転に心掛けてください。尚チェンジガイドカバーに貼付しています①、②、③、**走行** はあくまでも目安ですから「中間」位置での運転も可能です。尚走行時にはクラッチペダルの上に足をのせないでください。走行中ペダルの上に足をのせるとミッション内部のディスクブレーキが常に半効きの状態となり、ディスクプレートの摩耗を早めます。

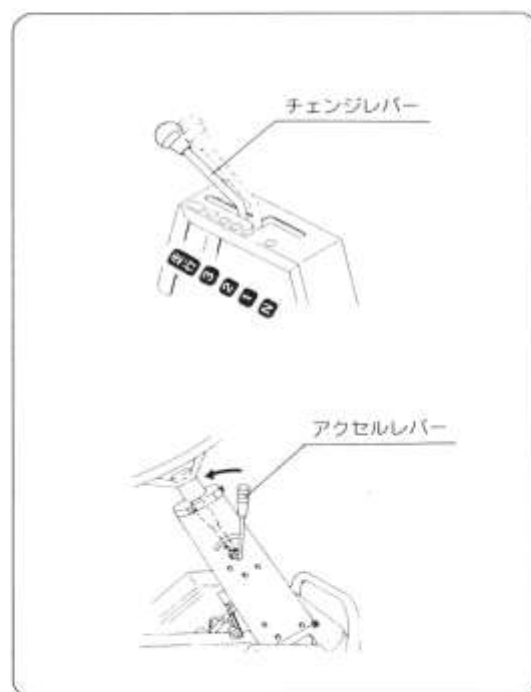


図6

### ■5-7 ダンプバルブ（エンジン停止時の機体の移動）

エンジン停止時に機体を移動する際、ダンプバルブに付属のダンプバルブレバーの穴を合せて取付けレバーを上にした状態で機体を移動する事が出来ます。エンジン始動後は、ダンプバルブ操作は行わないでください。

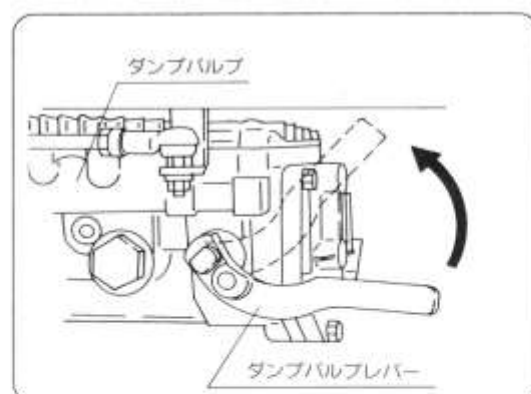


図7

## 6 作業方法



★本機は乗用型草刈機です。周囲の安全を確認して作業をおこなってください。機械を離れる時、または使わない時はキーを外してください。

### ■6-1 圃場条件の確認

- ① 圃場内の空き缶、石、ビニール、針金、切株等は全て取除いてください。
- ② 圃場及び条件の悪い所（地面のでこぼこ、ぬかるみ、大きなくぼみ、枝下の低い所等）の確認をし、危険と思われる場所には目印を置き、誤って接近しないようにしてください。
- ③ 傾斜地においては最大15度までとし、それ以上は危険です。無理な作業はおこなわないでください。

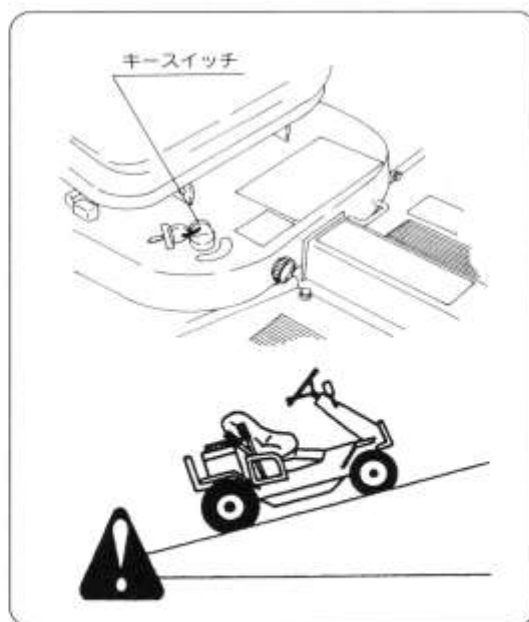


図8

### ■6-2 周囲の安全

- ① 圃場近くの人や作物、建物、車、自転車等への飛び石等の被害が出ないように十分な注意を払ってください。
- ② 作業範囲内に人（子供）等が入り込まないように注意して安全を確保してください。



図9

## 6 作業方法



- ★カバー類は全て取付けた状態で作業してください。
- ★運転中は回転部（ベルト、プーリー、刃刃）に不用意に手足を近付けると巻き込まれたり、手足の切断等の大けがになる事もありますので、近付けないでください。
- ★点検整備や回転部からみついた草等を取除く時は必ずエンジンは停止してください。
- ★傾斜地作業は危険です。作業速度も低くおさえて、けして無理な作業はしないでください。本機は15度以下で使用してください。
- ★雨降りの時や地盤のゆるい所では、スリップしやすくなりますので注意してください。

### ■6-3 草刈作業

#### (1) MPM-950H

##### 1) 作業方法

- ① エンジンを始動し、アクセルレバーは「中間」位置まで引きます。
- ② 刈高さレバーは「2」位置で刈取クラッチを静かに入れてください。刈取クラッチを急いで入れますとベルトの損傷を早めます。
- ③ 変速は1速で作業を初め、周囲の安全を確認して徐々に機械や運転者の能力にあった運転をおこなってください。決して最初から無理な運転はしないでください。

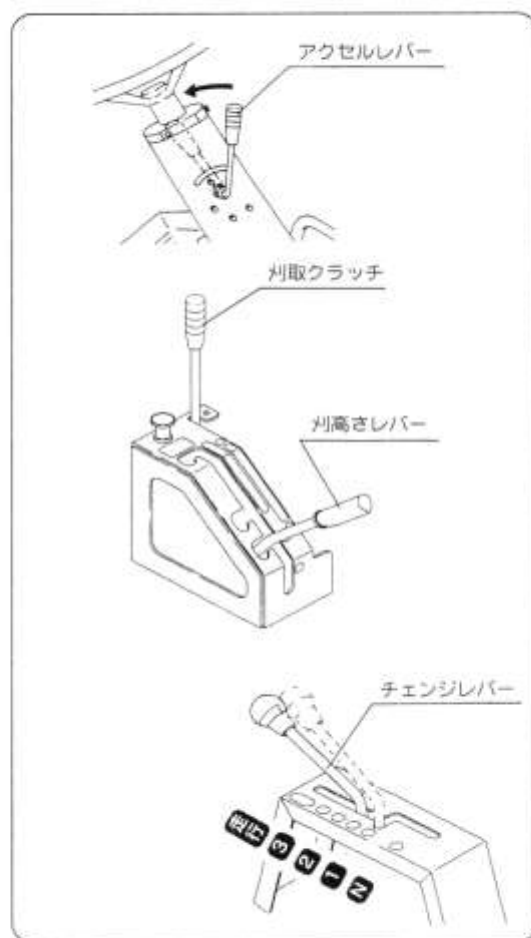


図10

## 2) 停止方法

- ① クラッチペダルをいっぱい踏み込んでください。チェンジレバーが自動的に「中立(N)」位置に戻ります。
- ② 刈高さレバーを「走行」位置へ戻してください。刈取クラッチも同時に切れます。
- ③ アクセルレバーを戻してください。
- ④ キースイッチを「OFF(停止)」位置にしてください。

### 上手にお使い頂く為の注意

- 草の量や条件にあわせて刈高さ及び速度を選定してください。作業中はエンジンの回転を一定に保つようにしますと作業がきれいにできます。
- エンストが多いとエンジンにも悪い影響があり、また、ベルトの摩耗やベルトの切断になりますので注意してください。

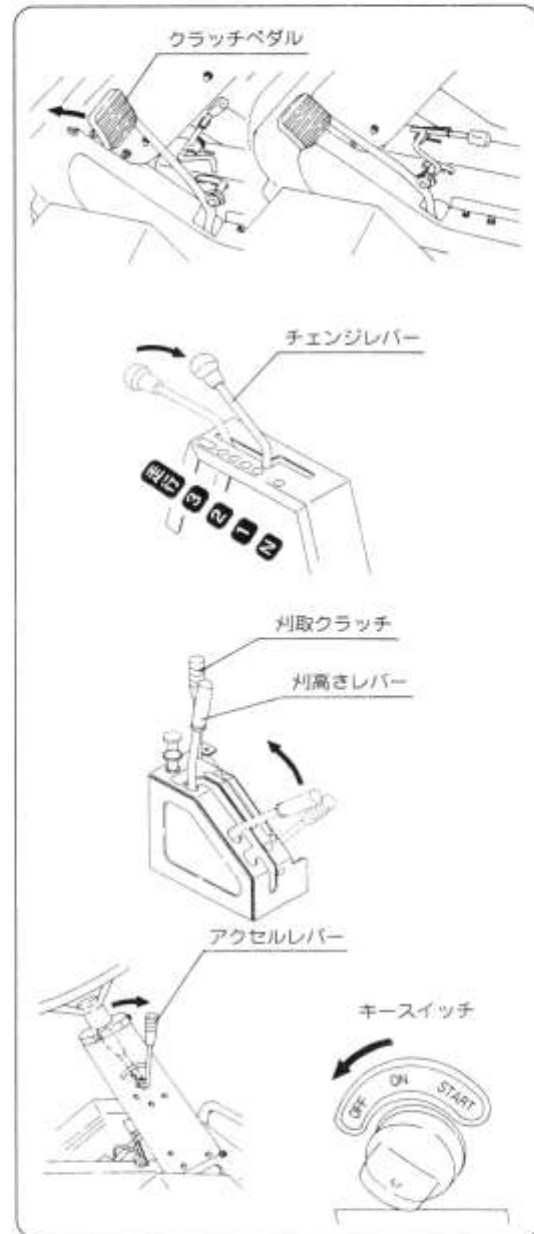


図11

## 6 作業方法



- ★カバー類は全て取付けた状態で作業してください。
- ★運転中は回転部（ベルト、プーリー、刃刃）に不用意に手足を近付けると巻き込まれたり、手足の切断等の大けがになる事もありますので、近付けないでください。
- ★補助ローターを上げたままでの作業はしないでください。
- ★点検整備や回転部からみついた草等を取除く時は必ずエンジンは停止してください。
- ★傾斜地作業は危険です。作業速度も低くおさえて、けして無理な作業は、しないでください。本機は15度以下で使用してください。
- ★雨降りの時や地盤のゆるい所では、スリップしやすくなりますので注意してください。

### (2) MPM-1350Hの場合

#### 1) 作業方法

- ① エンジンを始動し、アクセルレバーは「中立」位置まで引きます。
- ② 取手を持ち2ヶ所のクランプレバーを緩め補助ローターを下げてください。
- ③ 補助ローターを下げたら②のクランプレバーは締め付けてください。③のクランプレバーは締め付けしないでください。圃場の凸凹にそって作業ができます。
- ④ 作業時に②のクランプレバーを締め付けないと、補助ローター用のVベルトがたるみ作業に支障をきたす事もありますので注意してください。
- ⑤ 補助ローターを下げた際補助車輪（尾輪）の高さを確認してください。左右の刈り高さが同じになる様に①ボルトを緩めて高さ調節をしてください。

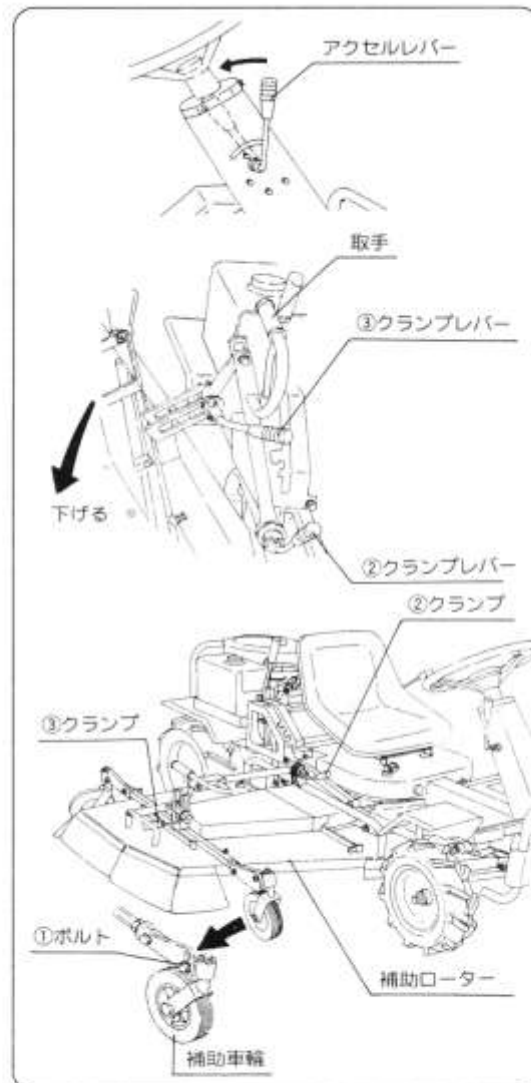


図12

- ⑥ 刈高さレバーは「2」位置で刈取クラッチを静かに入れてください。刈取クラッチを急いで入れますとベルトの損傷を早めます。
- ⑦ 変速は1速で作業を初め、周囲の安全を確認して徐々に機械や運転者の能力にあった運転をおこなってください。決して最初から無理な運転はしないでください。



図13

## 6 作業方法

### 2) 停止方法

- ① クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。チェンジレバーが自動的に「中立(N)」位置に戻ります。
- ② 刈高さレバーを「走行」位置へ戻してください。刈取クラッチも同時に切れます。
- ③ アクセルレバーを戻してください。
- ④ キースイッチを「OFF(停止)」位置にしてください。
- ⑤ 取手を持ち補助ローター部をいっぱいに持ち上げて2ヶ所のクランプレバーを締付けてください。(走行時姿勢)

#### 上手にお使い頂く為の注意

- 草の量や条件にあわせて刈高さ及び速度を選定してください。作業中はエンジンの回転を一定に保つようにしますと作業がきれいにできます。
- エンストが多いとエンジンにも悪い影響があり、また、ベルトの摩耗やベルトの切断になりますので注意してください。

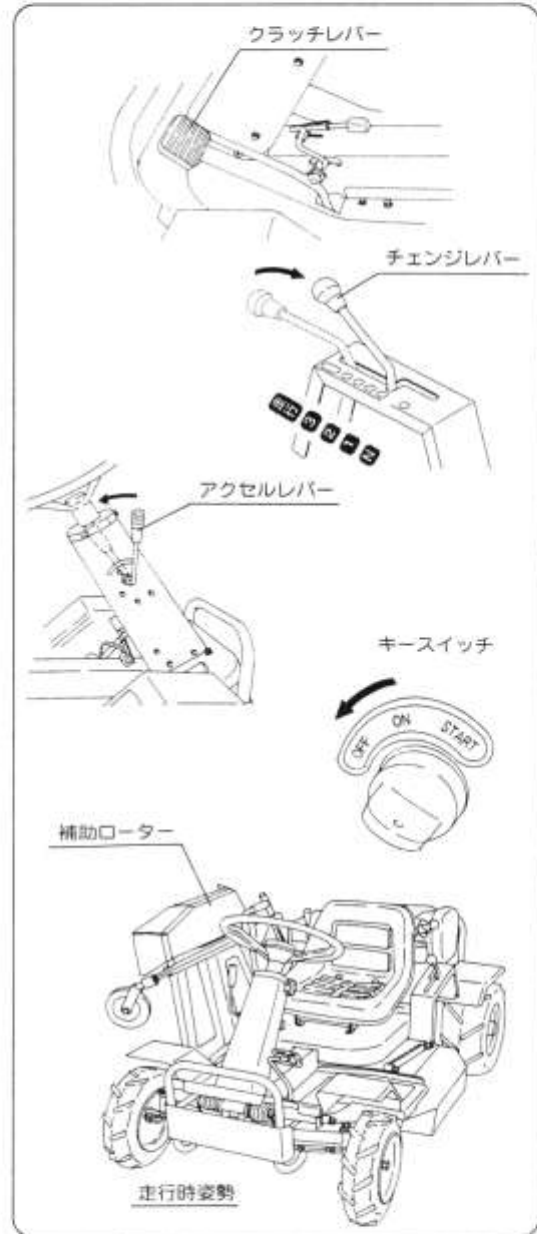


図14

## ■6-4 トラックへの積降し方法



### 注 意

- ★ロープを掛ける時、チェンジレバーや樹脂などの小物部品にロープが触れない様に気をつけてください。
- ★あゆみ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用してください。
- ★ロープを掛け終わったら、駐車ブレーキをセットしてください。

- ① 平坦で安全な場所を選び、トラックは動かないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引き、車止めをしてください。
- ② あゆみ(ブリッジ)板は長くて丈夫なものを使用し、荷台に確実に固定してください。
- ③ 積込みの際は、エンジン回転は絞り、ゆっくり前進で積込んでください。
- ④ 機体は荷台にロープで確実に固定します。
- ⑤ 機体にロープを掛ける時は、前部バンパー・後部バンパーを確実に固定してください。
- ⑥ 積降しは、後進でゆっくり降してください。

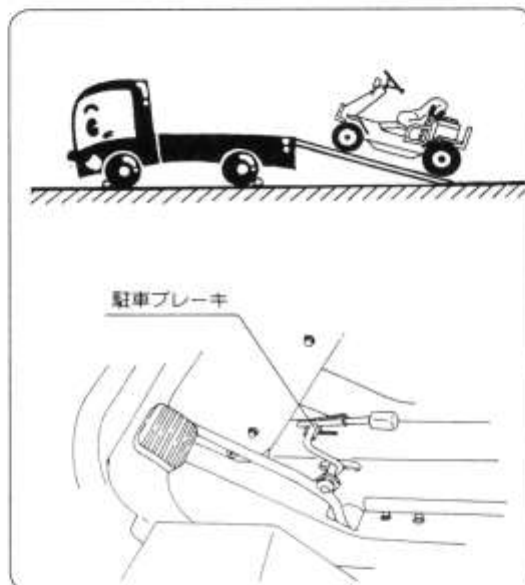


図15



## 7 作業後の点検・整備

安全のため、そして故障を未然に防ぐため、機械を定期的に点検する必要があります。  
一般的な使用条件下での点検・整備の項目と時期は下表の通りです。

点検整備表

点 検 整 備 項 目	点検整備時期			
	作業時毎	25時間毎	50時間毎	参照頁
エンジンオイル点検、補給	○			24頁
ボルトナット類のゆるみ、脱落の有無の点検	○			
刃刃（ナイフ）のこぼれ、摩耗の点検	○			34頁
レバー類（チェンジレバー、刃刃クラッチレバー、アクセルレバー、チョークレバー）作動点検	○			
ベルトの張り具合、摩耗、損傷の点検		○		30頁
シート台内部清掃	○			22頁
ベルトカバー内清掃	○			23頁
エンジンオイル交換 ※1			○	24頁
油圧オイル交換（ミッション）			○	25頁
各作動部分へ注油及びグリスアップ		○		26頁
エアクリーナーの清掃 ※2		○		27頁
バッテリー液面点検		○		28頁

※1) エンジンオイル交換は初回のみ5時間運転後におこなってください。

※2) エアクリーナーエレメントの清掃は頻繁におこなってください。

### 1. シート台内部の清掃

- ① ノブを緩めて外してください。  
キースイッチを抜いてください。

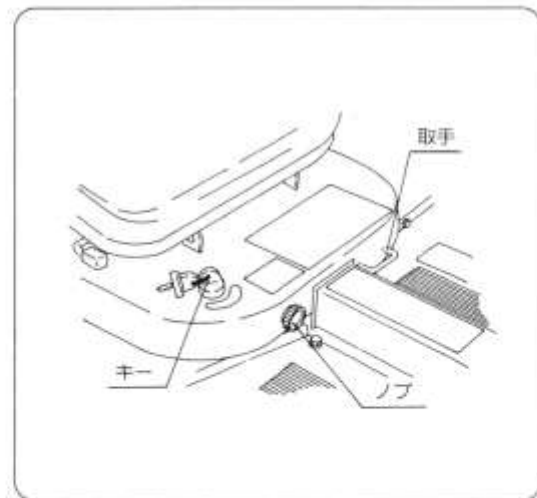


図16

- ② シート台前後の取手を握り持ち上げてください。シート台が外せます。
- ③ シート台内部のゴミを清掃してください。
- ④ 取付けはシート台を車台フレームのパイプにあわせると、固定ピンと4ヶ所のピン穴がありますから押し込んでください。
- ⑤ ノブを確実に締付けてください。

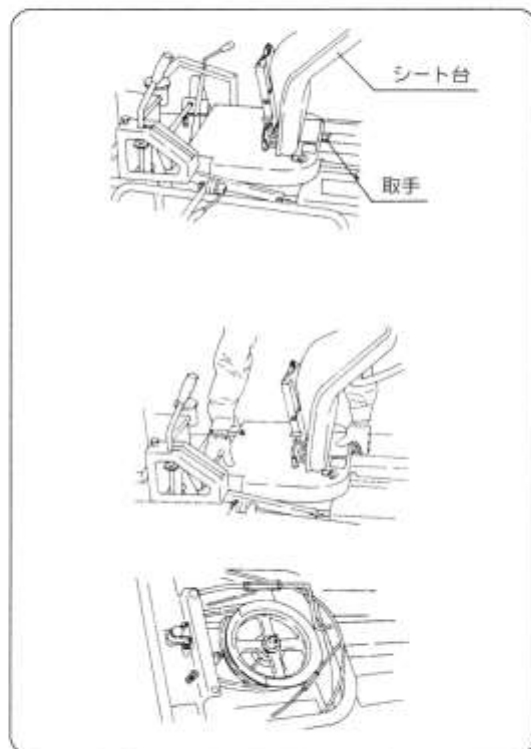


図17

## 2. ベルトカバー内の清掃 〔MPM・1350H〕

- ① ベルトカバーの前後の取手を握り持ち上げてください。ベルトカバーが外れます。
- ② カバー内のゴミを清掃してください。
- ③ 取付けは固定ピン2ヶ所をピン穴にあわせながら押し込んでください。

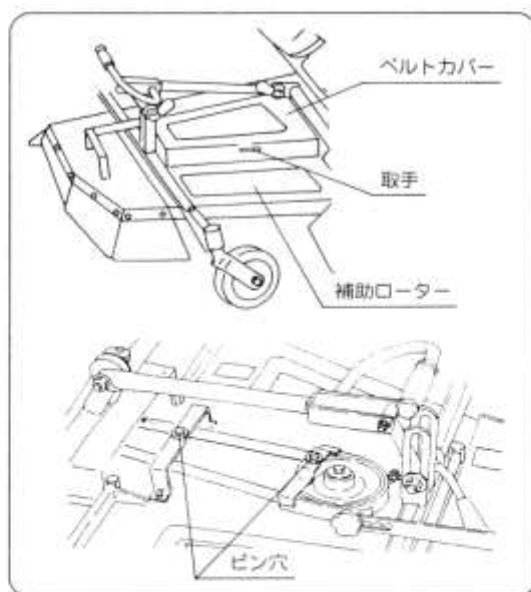


図18

## 7 作業後の点検・整備

### 3. エンジンオイルの交換



注意

★排出されるオイルで火傷をしないよう注意してください。

- エンジンオイルを残さないようにする為、左右の前輪の下に5～7cm位の板などを敷いて後方を低くしてください。
- エンジンが暖まっている時に抜きますと容易にできます。

- ① オイルゲージを取り外してください。
- ② ドレインパイプの先端ボルト（ドレインボルトA）を外してオイルを抜いてください。
- ③ ドレインボルトを確実に締付けてください。
- ④ 注油口より新しいエンジンオイルを規定量注入してください。（規定量1.7ℓ）
- ⑤ オイルゲージを取付けてください。
- ⑥ 使用オイルはSC級SD級SE級の良質の新しいオイルを使用してください。  
夏期………SAE-30、SAE10W-30  
                  SAE10W-40  
冬期………SAE-20、SAE10W-30

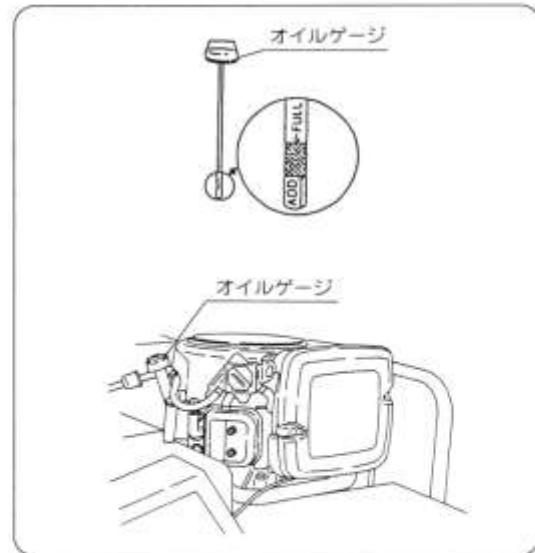


図19

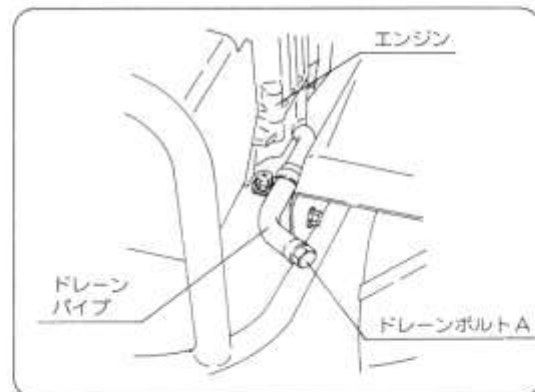


図20

#### 4. 油圧オイルの交換

●油圧オイル交換の際は、右側の前輪、後輪の下に約10cm位の板などを敷いて左側を低くしてください。

- ① リザーバー（油タンク）のキャップを外してください。
- ② 排油口ボルトを外してオイルを抜いてください。
- ③ 排油口ボルトを確実に締付けてください。
- ④ 機体を水平に戻してください。
- ⑤ 新しい油圧オイルをリザーバー（油タンク）より入れてください。FULL COLDの表示ライン迄が適量です。油量が多すぎますとリザーバーより吹出す事がありますので注意してください。

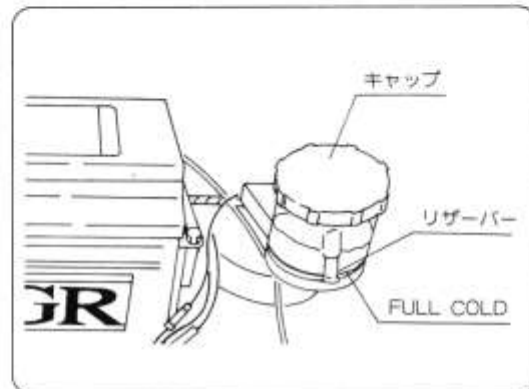


図21

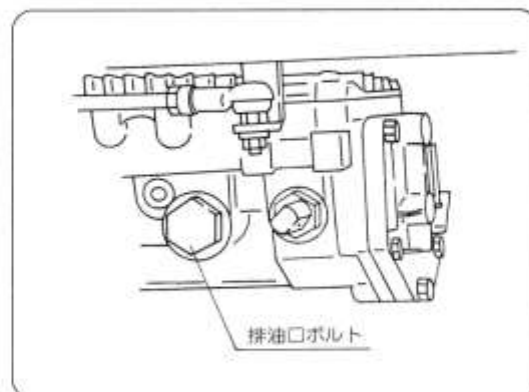


図22

#### 推奨油圧オイル一覧

社名	耐摩耗性油圧作動油	エンジン油
モービル石油	モービルDTE 26	モービルデルバック 1220
出光興産	ダフニー スーパーハイドロ 56,68	アポロイル デーゼルモチブ S320
日本石油	スーパー ハイランド 56,68	ハイデーゼル S-3 20W-20
丸善石油	スーパーフルード KE 56,68	スワビス S-3 20W-20
三菱石油	ダイヤモンドハイドロフルード EP 56,68	ダイヤモンド HD S-3 20W-20
シェル石油	シェルテラスオイル K56	シェルリムラ Z 20/20W
	ドナックスTD	

## 7 作業後の点検・整備

### 5. 注油

- ① 各作動部分には油差しで注油してください。
- ② 各々のレバー類、軸受部、開閉カバーのリンク部分等。
- ③ 各々のワイヤーには注油口よりワイヤーを作動させながらおこなってください。特に、露出部分には念入りにおこなってください。

### 6. グリス

グリスニップルの箇所には、グリスポンプで補給してください。



図23

## 7. エアークリーナの手入れ

- ① 両方のクリップを外し、カバーを取外します。
- ② カートリッジからウレタンを取外します。
- ③ せっけん水で洗います。
- ④ 絞ってきれいな布で乾燥させます。
- ⑤ エンジンオイルをしみ込ませます。きれいで吸引性のある布で包み、余分なオイルを拭き取ります。
- ⑥ カートリッジに取付け、エアークリーナカバーを正しくエアークリーナボディーにセットします。

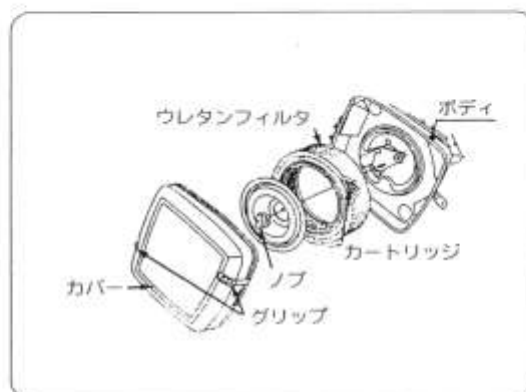


図24

## 7 作業後の点検・整備

### 8. バッテリーの点検

作業後には、バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限と下限の間にあるか確認してください。

バッテリー液が少ない場合は、バッテリー補充液を補充してください。

寒冷地などの気温の低い地域またエンジンの始動がしにくくなったりしましたら、補充電をおこないます。また、本機を2週間以上運転しないとバッテリーが放電してセル始動ができない場合があります。このときにも、補充電をしてください。本機を長時間使用しないときは、最低1ヶ月に1回は補充電をおこなってください。バッテリーが長持ちします。またバッテリー液量も点検してください。

※バッテリー補充液はガソリンスタンド等で販売しています。

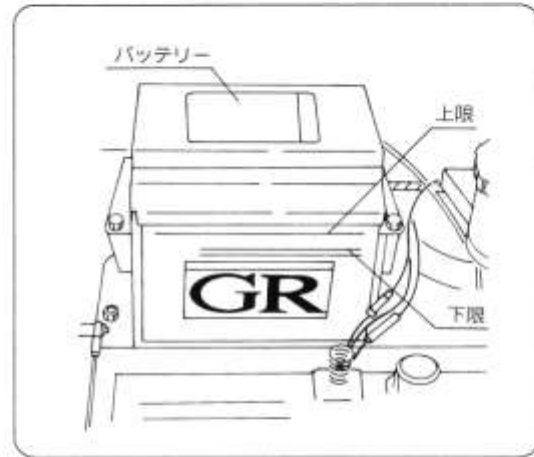


図25



危険

★バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの上限を超えるほど入れますと使用中に液もれし本機を腐蝕させることがありますので、補給するときは液面レベル上限を超えないよう注意してください。

バッテリー液は希硫酸ですので身体や服に付けないようにしてください。もし身体や服に付いたときは、すぐに水洗してください。

## 1. バッテリーの取付け、取外しかた

- ① 締付バンドを外してください。
- ② バッテリー蓋を外してください。
- ③ バッテリーの⊖側のコードを外してください。
- ④ バッテリーの⊕側ゴムキャップを外し、  
⊕コードを外してください。
- ⑤ バッテリーの取り外しをしてください。
- ⑥ バッテリー取付けの際は上記の逆の作業  
を確実にこなってください。

## 2. 補充電のしかた

- ① バッテリーのキャップを全部外してください。
- ② バッテリー液が液面レベルの上限と下限  
の間にあるか確認して、少ない場合はバ  
ッテリー補充液を補充してください。
- ③ 急速充電は避けて普通充電をおこなっ  
てください。
- ④ バッテリーの⊕を充電器の⊕に接続し  
てください。
- ⑤ バッテリーの⊖を充電器の⊖に接続し  
てください。
- ⑥ 充電中はタバコ等の火気は近づけない  
でください。



図26



## 8 主要部の調整

ベルトは初期伸びが発生いたします。使用后10時間位でベルトの伸びを調整してください。

### 1. 走行ベルトの調整

- ① テンションアームのナットを緩めてください。
- ② ボルトを締め込んでください。ベルトが強く張れます。

### 2. 刈取クラッチのベルト調整

- ③ 刈取クラッチワイヤのターンバックルナットを緩めてください。
- ④ ボルトの⑧寸法を延してください。ベルトが強く張れます。

### 3. ベルトの交換要領

- ⑤ ベルト押えAを外してください。
- ⑥ 冷却ファンを外してください。
- ⑦ テンションアームを緩めてください。
- ⑧ エンジンプーリーを締付けている六角穴付ボルト3本を緩めてください。
- ⑨ シート台を止めているノブを外してください。
- ⑩ キースイッチを抜いてください。
- ⑪ シート台を椅子ごと外してください。
- ⑫ 刈取部ベルト押えを外してください。
- ⑬ ブレーキ連結ロットのワリピンを外してください。
- ⑭ 刈刃プーリーよりVベルトを外してください。エンジン側もベルトを外してください。
- ⑮ 走行ベルトも外してください。
- ⑯ ベルトの交換をおこなってください。ベルトの交換後上記の逆の作業をおこなって全てを締付けてください。

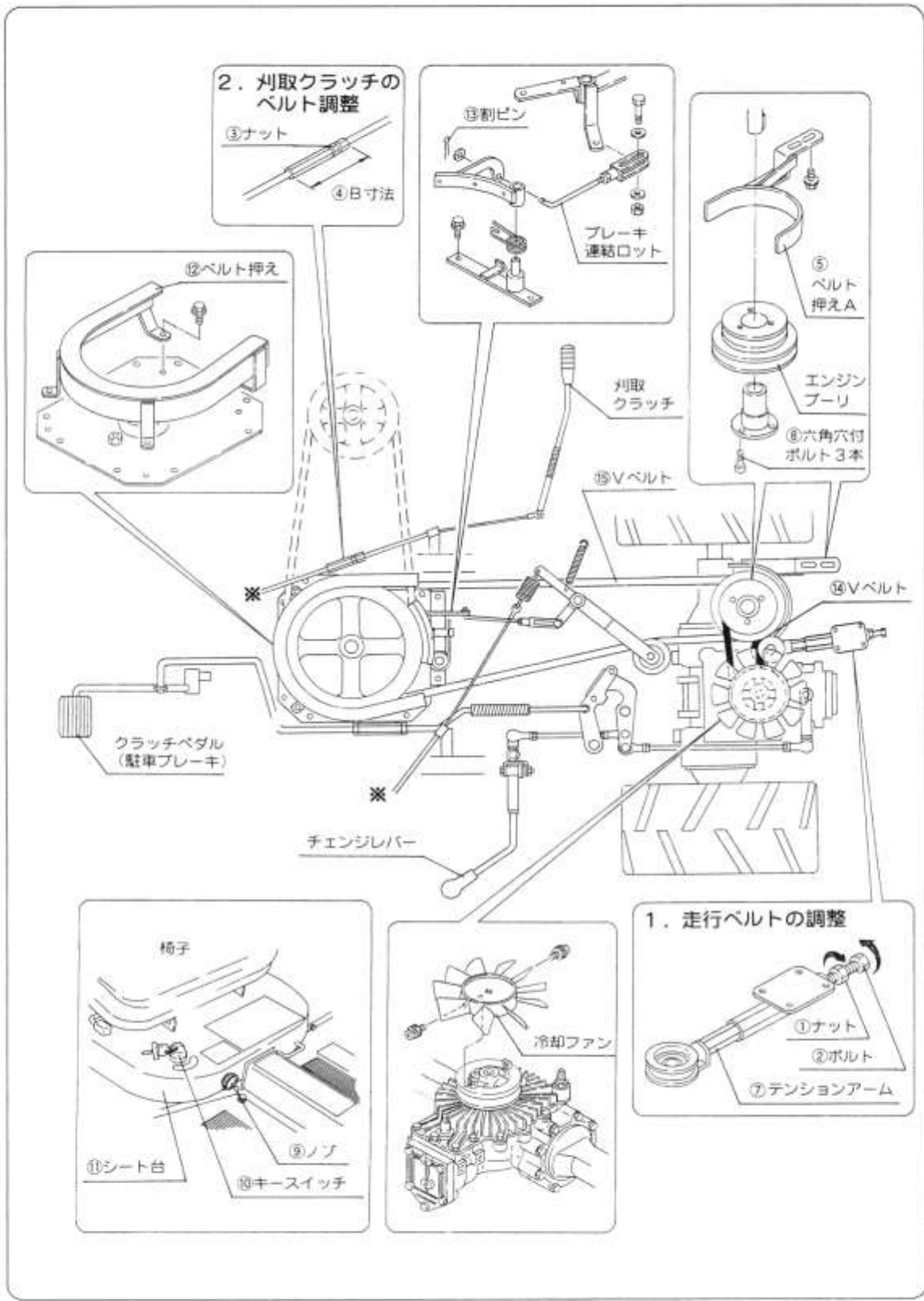


図27

## 8 主要部の調整

MPM-1350Hの場合は補助刃のVベルトの交換要領

前記⑩迄は同一作業

- ① 刃ブリーを外してください。
- ② ブレーキ取付金具を外してください。
- ③ 固定フランジBの廻りのボルト6ヶ所を外してください。
- ④ 固定フランジBの中心部2ヶ所にM10×70~80ℓのボルトを差込みブリー抜きで固定フランジBを刃シャフトより抜いてください。
- ⑤ ベルトカバーAを外してください。
- ⑥ 2本のボルトを緩めてベルト押えを外してください。
- ⑦ 取手を持ち補助ローター部を約30°位持ち上げてベルトをたるませて運転席側のクランプレバーを締付けてください。
- ⑧ ベルトの交換をおこなってください。ベルトの交換後上記の逆の作業をおこなって全てを締付けてください。

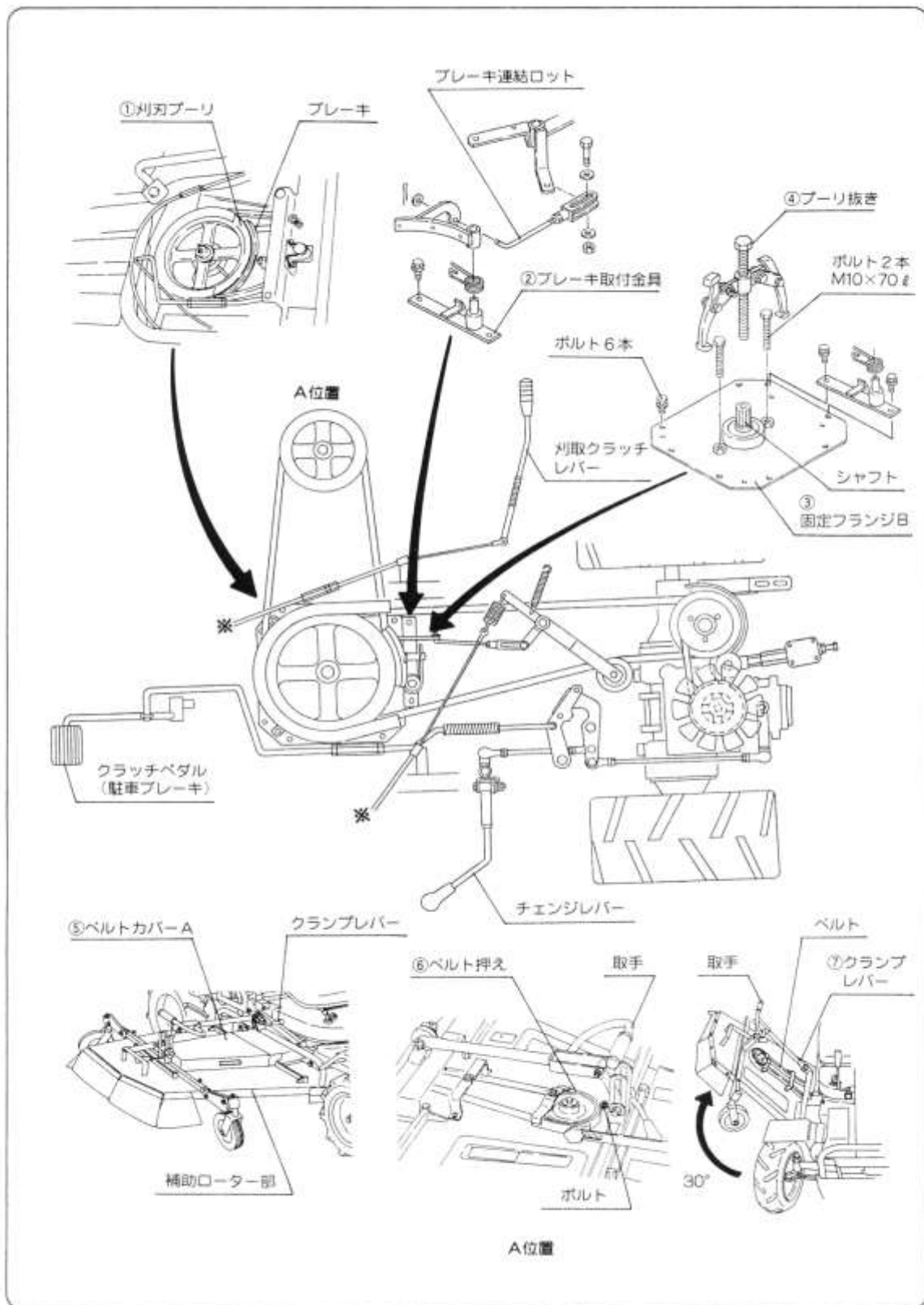


図28

## 8 主要部の調整



注意

★草の切れ味が悪くなったり、刃のこぼれ、摩耗が多くなった時は刃刃（ナイフ）の交換を早めに行ってください。Uナットの取外しや締付けの際は出来る限り、T型ボックスを使用してください。スパナを使用しますと、スパナが外れて刃刃で負傷することもありますので注意してください。



警告

★新しい刃刃に交換の際は※印部品も摩耗致しますので安全の為、同時に交換してください。  
★刃刃は高速で回転しています。片側のみ新しい刃刃を取付けますと左右のバランスが崩れ、機体が振動し故障の原因となりますので左右同時に交換してください。

### 4. 刃刃の交換要領

刃取クラッチレバーを「切」位置にしますと、刃刃にブレーキが掛り回転しません。刃取クラッチを中間ぐらいまで下げますと手で廻すことが出来ます。

- ① 割りピンを抜いてください。
- ② Uナット (M12) を外してください。
- ③ 新しい刃刃に交換してください。
- ④ Uナットを確実に締付けてください。この時刃刃が軽く動くことを確認してください。
- ⑤ 割りピンを取付けてください。

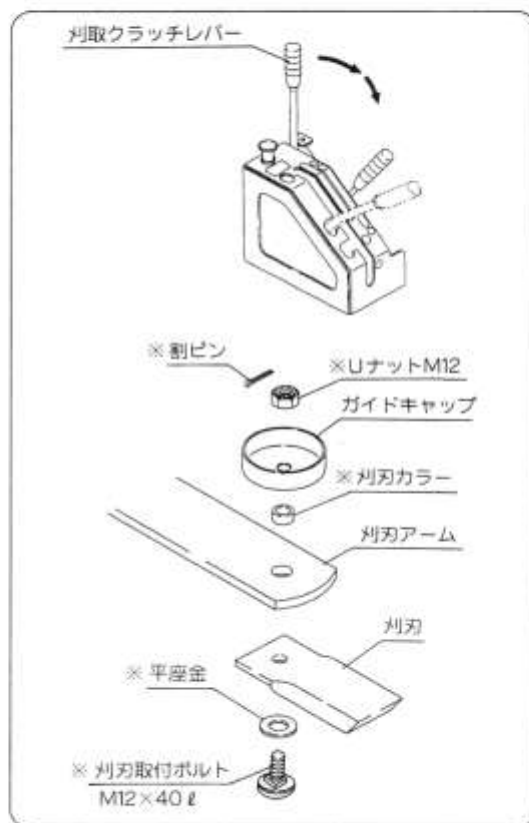


図29

## 5. 駐車ブレーキの調整

チェンジレバーが「中立(N)」位置で比較的平坦な場所でエンジン回転数がアイドリング状態に於いても駐車ブレーキのフックを掛けないと機体が微速で移動する事がありますから必ず駐車ブレーキのフックをセットしてください。

駐車ブレーキの利きを良くするにはブレーキロットのナットを締込んでロットの長さを短くしてください。

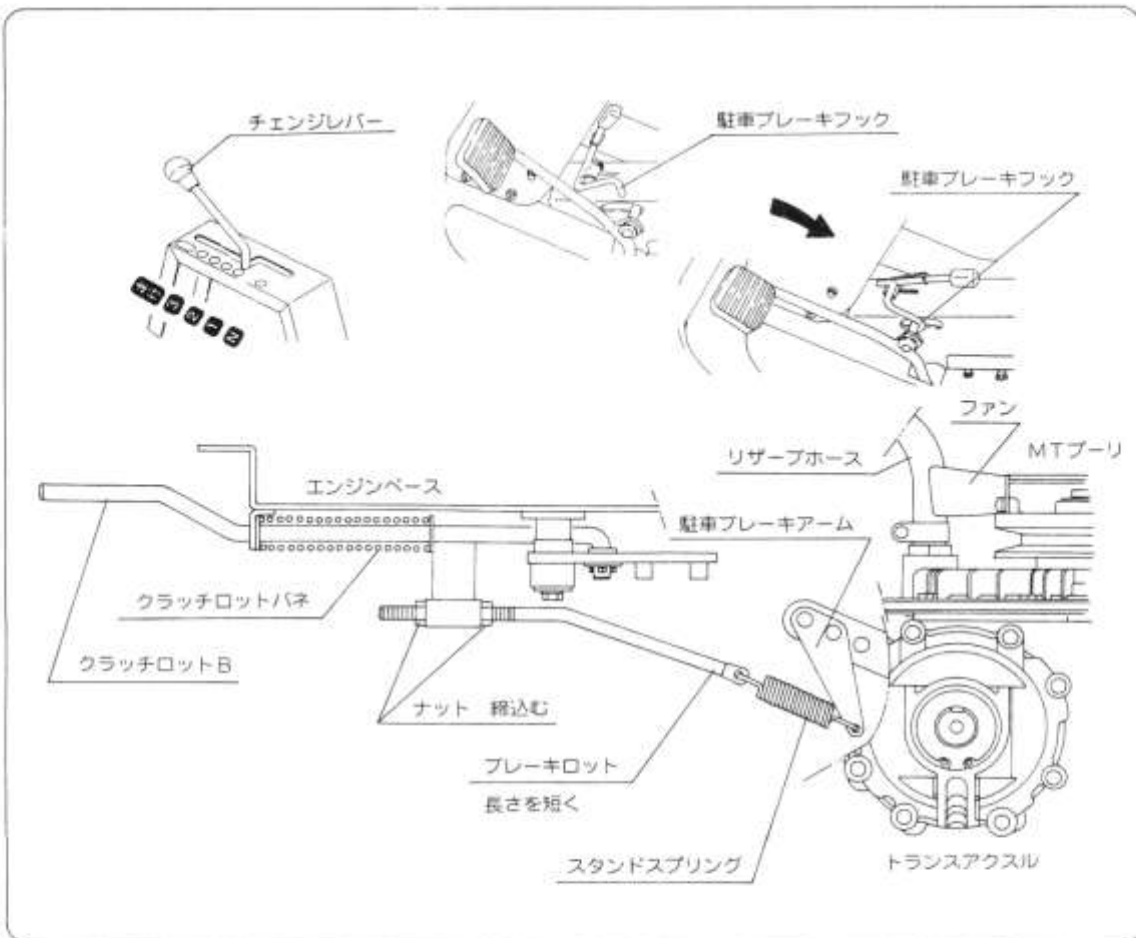


図30

## 8 主要部の調整

### 6. 刃取ブレーキの調整

長時間使用しますと、刃取クラッチを「切」位置にしても刃取が惰性で回転し停止迄の時間が長くなります。これはブレーキパッドの消耗により起りますのでその際はナットを緩めブレーキ連結ロットの長さを延ばす様に調整してください。

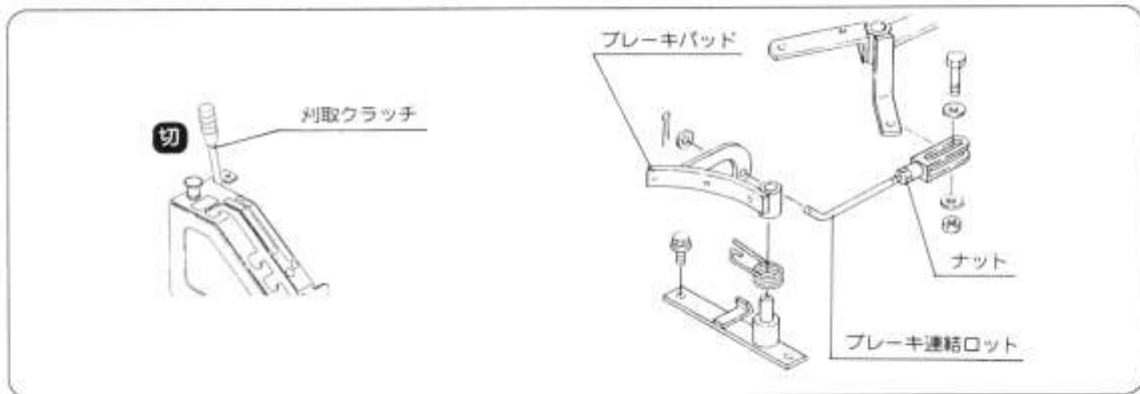


図31

### 7. チェンジレバーの調整

チェンジレバーが「中立(N)」位置で比較的平坦な場所でエンジン回転数がアイドリング状態で駐車ブレーキのフックを掛けないと機体が前進方向に移動する場合はナットを緩めチェンジロットBのA寸法を短くし後進方向に移動する場合はチェンジロットBのA寸法を長くなる様に調整してください。

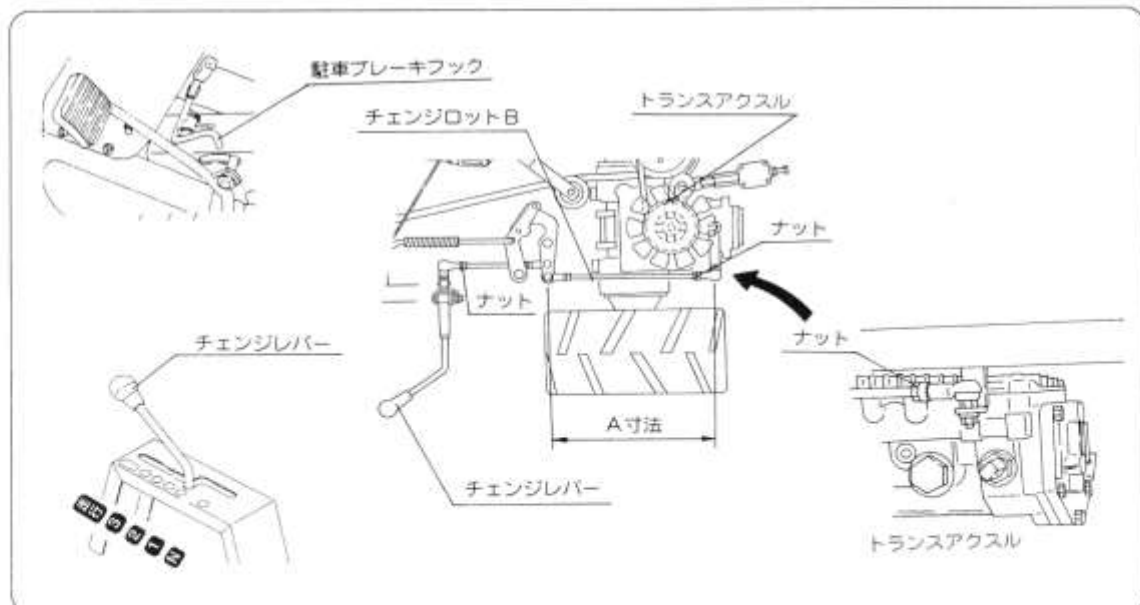


図32

## 9 格納のしかた

長時間運転しない時や長時間保存する場合は次の手入れをおこなってください。

### 1. 本機の清掃、洗浄、注油

泥、ゴミ塵などは水洗し、水洗後はよく水分をふきとり各回転部、摺動部にたっぷりと油をさしてください。(22、23頁参照)

### 2. オイル交換

オイル交換は作業が終わって潤滑油の暖かいうちにおこないますとたいへん楽です。またきれいに排油する事ができます。

(24、25頁参照)

### 3. ガソリンの抜き取り



危険

★燃料を抜く時には火気厳禁、風通しの良い所でおこなってください。抜いたガソリンは安全な所に保管してください。

エンジンを30日以上使わないときは燃料の変質による始動不良等を防止するために気化器内の燃料をドレンプラグを緩めて抜いてください。また燃料コックのホースバンドを外し燃料タンク内の燃料を抜いてください。



図33

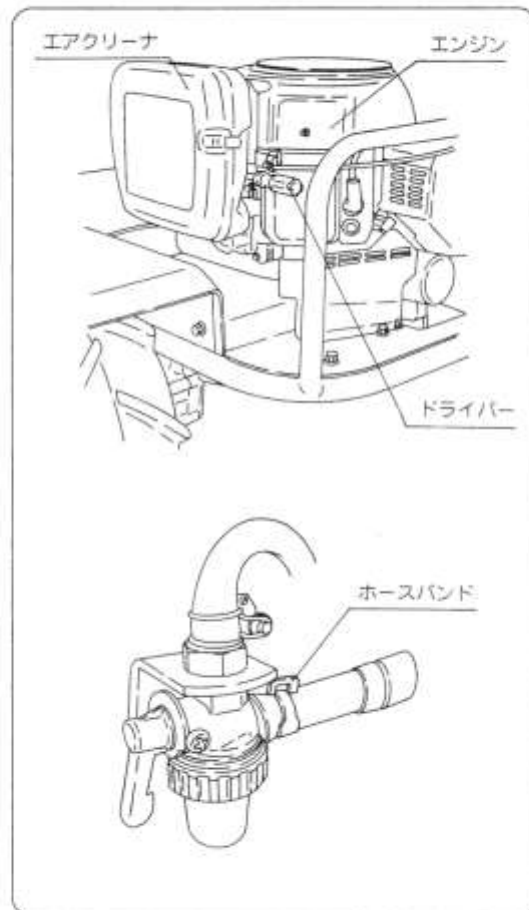


図34



## 10 特 長

1. 1本の操作レバーで前進、後進のスピードコントロールが可能です。
2. 前進、後進はHST無段変速で、圃場条件に応じた任意の速度が選べます。
3. ブレーキペダルを踏むと、自動的に走行レバーが「中立」位置に戻りますので、操作が簡単です。(HSTの油圧ダイナミックブレーキが作動します。)
4. ブレーキペダルをいっばいに踏み込まないと、始動出来ないように安全機能を備えています。刈取クラッチが「入」位置の状態では座席を離れますと、エンジンが停止できる二重安全装置を備えています。
5. ブレーキペダルをいっばい踏み込み、ロックレバーをセットすれば駐車ブレーキとなります。
6. 刈取クラッチと刈刃ブレーキは、連動式で刈取クラッチを切るとブレーキが作動して、刈刃を停止する事が出来ます。
7. 丸ハンドルでラック&ピニオン式ですからハンドル操作が楽です。又、ハンドル高さの調節も出来ます。
8. 作業幅は、1350mmとワイドになっており、樹の根元や枝下作業も出来ます。又、補助ローター部は、圃場の凸凹に追従できる特殊装置を備えています。(MPM-1350H)
9. 補助ローター部の折りたたみは、クランプレバーの締付けのみで行い、ベルト等の調整は不要です。折りたたみやすくと軽自動車への積み下ろしも出来ます。(MPM-1350H)
10. エンジンは、OHV2気筒高出力ガソリンエンジンで、セルスタータ方式ですから始動が容易で、余裕のある作業が出来ます。

# 11 仕 様

名 称 型 式		マメトラMPM-950H	マメトラMPM-1350H
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1740	1740
	全 幅 (mm)	1000	1470
	全 高 (mm)	880	880
	重 量 (kg)	245	275
搭 載 エ ン ジ ン	銘 柄 型 式 名	ブリグス&ストラトン	ブリグス&ストラトン
	種 類	空冷2気筒OHVガソリンエンジン	空冷2気筒OHVガソリンエンジン
	最 大 出 力 (PS/rpm)	16/3600	16/3600
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	7.0	7.0
	排 気 量 (cc)	480	480
	バ ッ テ リ ー	12V・28A・19R	12V・28A・19R
	始 動 方 式	セルスタータ式	セルスタータ式
作 業 幅 / 刈 高 さ (mm)		950/20~60	1350/20~60
刈 刃		フリーナイフ式	フリーナイフ式
変 速		HST無段変速	HST無段変速
速 度	1 速 (km/h)	前進 0~7.4	前進 0~7.4
	2 速 (km/h)		
	3 速 (km/h)		
	4 速 (km/h)		
	後 速 (km/h)	後進 0~4.0	後進 0~4.0
ベ ル ト 寸 法 (吋)		走 行 部……LB-25 刈 取 部……LC-77	走 行 部……LB-25 刈 取 部……LC-79 補助ローター部……LB-71
タ イ ヤ	前 輪	3.50-7 (φ350)	3.50-7 (φ350)
	後 輪	16-7.00-8 (φ400)	16-7.00-8 (φ400)
軸 距 (mm)		1235	1235
輪 距	前 輪 (mm)	786	786
	後 輪 (mm)	720	720
最 小 回 転 半 径 (mm)		1800	1800
ブ レ ー キ 装 置		油圧ダイナミックブレーキ 駐車ブレーキ、刈刃ブレーキ	油圧ダイナミックブレーキ 駐車ブレーキ、刈刃ブレーキ
ハ ン ド ル 方 式		丸ハンドルラック&ピニオン方式	丸ハンドルラック&ピニオン方式
ハンドル調節方式 (mm)		ノブ締付調節高さ 80	ノブ締付調節高さ 80
能 率		20分~40分/10a	20分~30分/10a

# エンジン



- ◆エンジンや作業機を修理・点検中に起こり得る偶然のエンジン始動を防ぐためにあらかじめスパークプラグを外すか、スパークプラグコードを外してください。また、12ボルトセルスタータ付エンジンの場合はバッテリーのマイナスターミナルを外してください。
- ◆冷却フィンやガバナ関連部品にゴミや草などの堆積物が付着しないよう、清掃してください。おこたった場合はエンジンの設定回転に影響します。
- ◆エンジンを始動する前に以下の安全項目をよくお読みいただき、充分にご理解の上、エンジンを操作してください。また、エンジンの搭載作業機の取扱説明書もあわせてお読みください。



## 警告

- ★スパークプラグを外したまま、点火をチェックしないでください。（承認されたテスタをご使用ください。）
- ★スパークプラグを外した状態でエンジンをクランクしないでください。（ガソリンを吸い過ぎた場合はスロットルレバーを「高速」位置として、エンジンが始動するまでクランクしてください。）
- ★フライホイールを硬いものやハンマで叩かないでください。運転中に破損したり、飛散し周囲の人を損傷させることがあります。（純正工具を使用してください。）
- ★マフラを外したままで、エンジンを運転しないでください。（定期的に点検し、破損したり洩れている場合は交換してください。また、ディフレクタが取付けられている場合も定期的に点検し必要に応じ正しい部品と交換してください。）
- ★マフラ周辺部に積もった草や葉、ゴミ等の付着物をつけたままで運転しないでください。
- ★エンジンにスパークアレスタが装着されないまま、森の中、雑木林、草地など手入れされていない場所で運転しないでください。（スパークアレスタはオペレータによって正しく機能するよう手入れを行う必要があります。）
- ★熱くなっているマフラやシリンダ、冷却フィン等に手を触れないでください。ヤケドの恐れがあります。
- ★エアクリーナまたはエアクリーナカバーを外したままで運転しないでください。



**警告**

★ガソリンは常に新しいものをお使いください。古いガソリンはキャブレター内部にガム質付着や洩れの原因となることがあります。燃料ラインをチェックして洩れやひび割れがないか調べ、必要に応じて新部品と交換してください。



**注意**

★エンジン修理の際には、必ずブリグス&ストラトン純正部品をお使いください。純正部品をお使いいただくことにより、本来の出力が維持できます。純正以外の部品をお使いになった場合、故障や早期摩耗となる場合があります。

## オイル及び燃料

### オイル



**注意**

★エンジン出荷時にオイルは入っておりません。

### 燃料レベル

タンク給油の際、入れすぎないこと。オーバーフローしないよう上部を若干残すようにしてください。

オイル容量はオイルフィルタが装着されている場合は約1.7ℓです。エンジンを始動させアイドル30秒程運転します。エンジンを停止し、30秒程待ちオイルレベルを点検してください。ディスプレイの「FULL」マークまであるか確認してください。

# エンジン

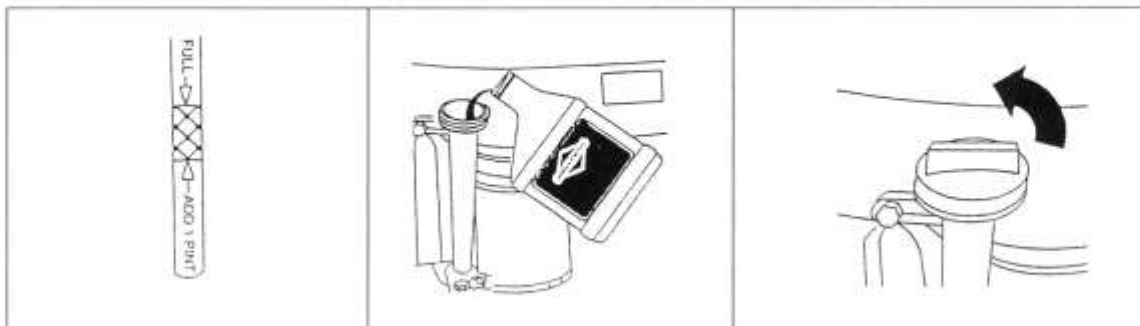
エンジン始動前にオイルレベルを点検し、図に示すようにオイルを補充してください。



エンジンを水平にしてオイル注入口周辺を拭取る

ディップスティックを外し、きれいな布で拭く

ディップスティックを締込んでから外して点検する

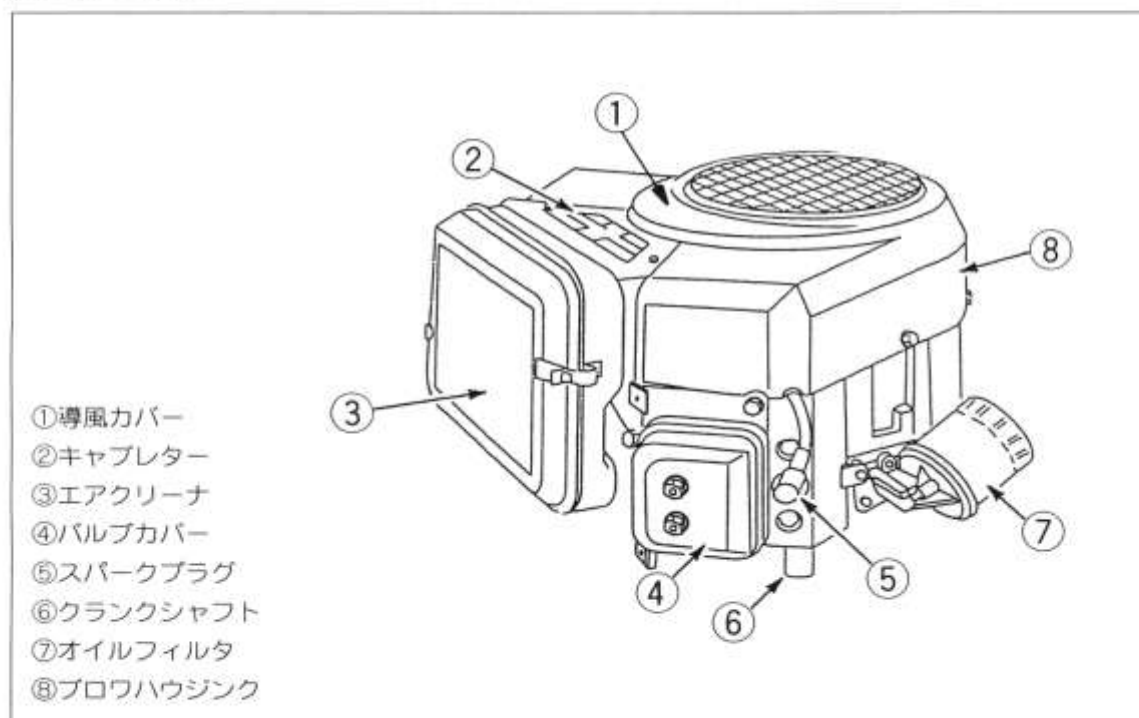


オイルレベルがFULLまであるか確認する

不足している場合はゆっくりと補充し、再点検

エンジン始動前には必ずディップスティックをしめる

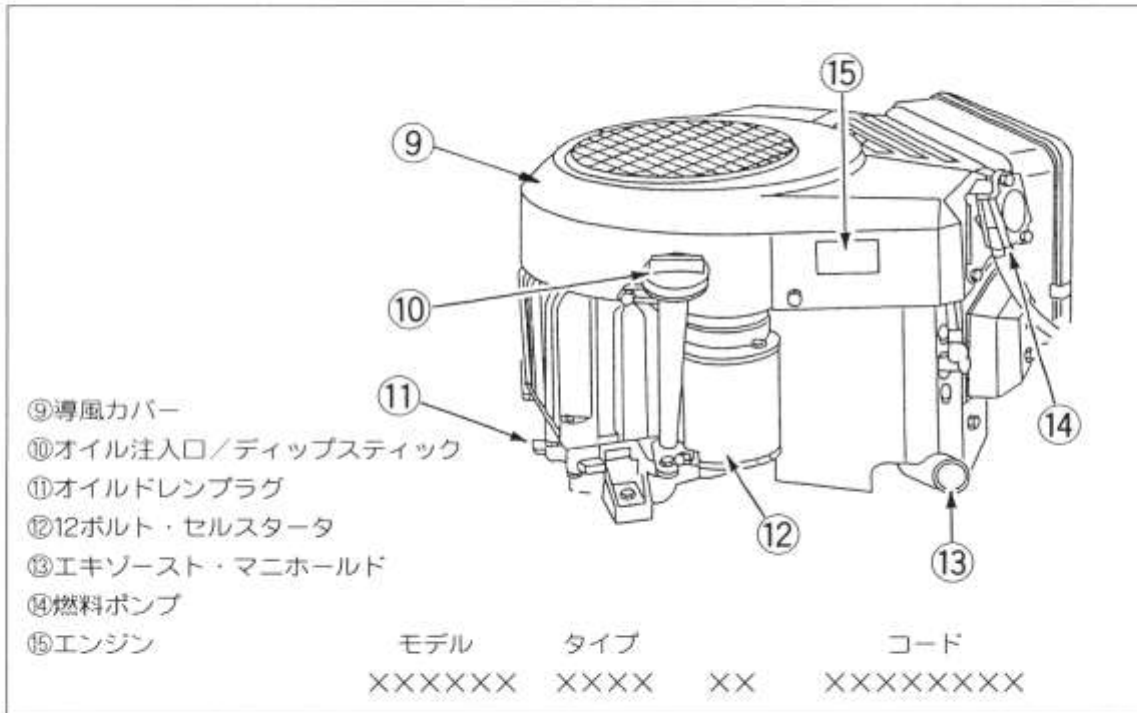
## 始動の前に



### 低温時の始動ヒント

1. 外気温に合わせたオイルを選定する。
2. 負荷が掛からないようにクラッチを切ります。
3. アクセルレバーを「中間」位置にします。
4. バッテリーを保温しておくことをお勧めします。
5. 保管した夏期用ガソリンを使用しないでください。冬期用の新しいガソリンを使用してください。

# エンジン



## 始動と停止

### エンジン始動



警告

★刃や回転部には手や足が触れないように注意してください。

### アクセル

アクセルレバーを〔中間〕または〔高速〕位置とします。

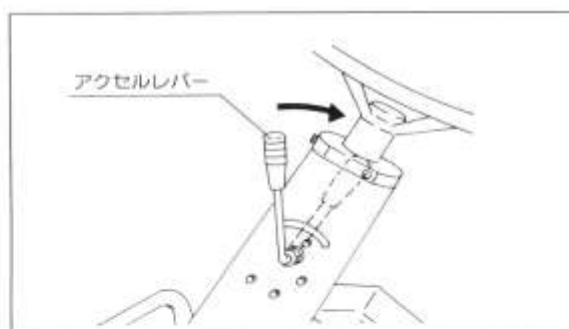
### チョーク

チョークレバーを〔閉〕位置とします。

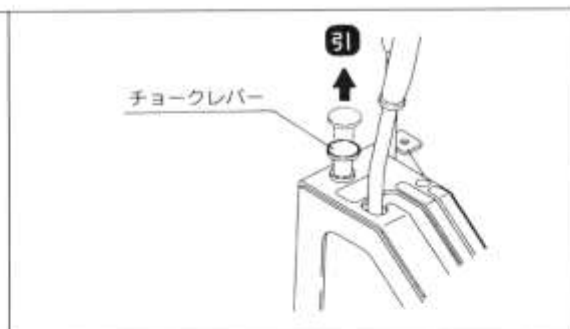


注意

★チョークレバーを引いて、チョークバルブが確実に閉まっている必要があります。



アクセルレバー



チョークレバー



# エンジン

## セルスタータ

キーを「ON(運転)」位置、「START(始動)」位置に回してください。繰り返す場合はチョークを開き、スロットルを「高速」位置とします。エンジンが始動したらスロットルを「高速」位置としてください。



### 注意

★バッテリーはエンジン始動前に、補充電してください。(28頁参照)

スタータモータのライフを伸ばすために、数秒の短い時間で作動させてください。もし一回で15秒以上回転させた場合は、少なくとも1分以上休ませてください。エンジンをかけ損なった場合、一旦キースイッチを「OFF(停止)」位置にしてから再始動させてください。急いで再始動させた場合、スタータギヤを損傷することがあります。バッテリーを外したままで、エンジンを運転しないでください。

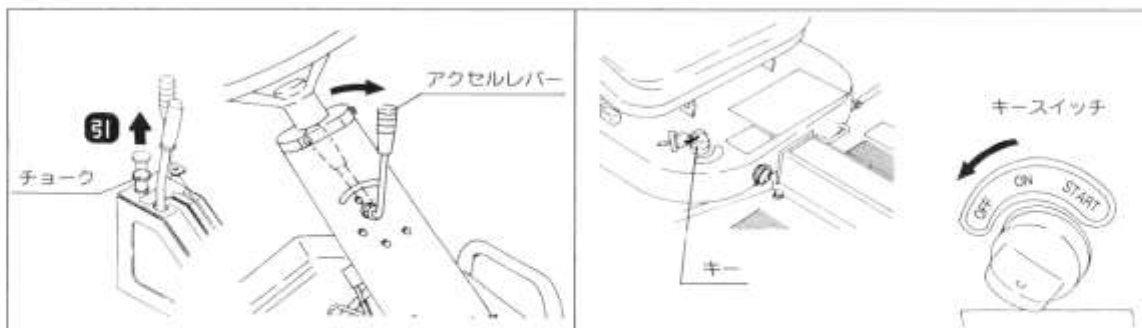


## 停止

チョークを引いてエンジンを停止させないでください。

バックファイヤが発生したりエンジンを損傷することがあります。

アクセルレバーを「SLOW(低速)」位置にしてからキースイッチを「OFF(停止)」位置にしてください。(12頁参照)



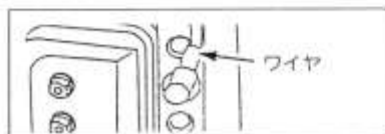
## メンテナンス

不意な始動を防ぐために



注意

★エンジンや作業機の調整をする際には必ずスパークプラグコードもしくはバッテリーのマイナスターミナルを外してください。



### オイル

#### 通常のオイル点検

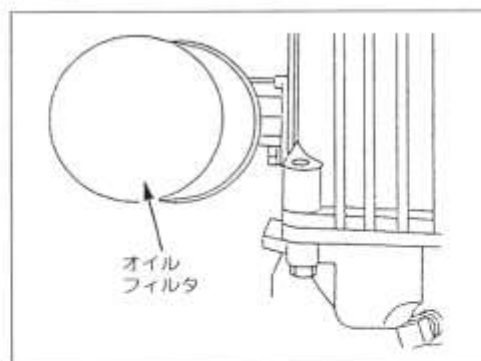
作業時毎、オイル点検をおこなってください。エンジンの維持のためにも確実なオイルレベルを保ってください。24頁のオイル点検を参照してください。

#### オイル交換（メンテナンススケジュール参照）

新しいエンジンは、最初の運転5時間後に第1回目のオイル交換をしてください。その後、軽い負荷での運転では50時間もしくはシーズン毎のいずれか早い時間に交換してください。負荷が過酷であったり、高速度下での運転の場合は、運転25時間毎に交換してください。交換はエンジンが暖まっているうちにオイルドレンプラグを外し、オイルを抜きます。抜き終わったらドレンプラグを取付け、ディップスティックを外し、新しい適正粘度のオイルを注入します。ディップスティックを正しく取付けます。エンジンを始動し、約30秒程運転します。エンジンを停止し、さらに30秒後待ちオイルレベルを再度点検します。不足していれば、ディップスティックの「FULL」マークまで補充してください。

#### オイルフィルタの交換（メンテナンススケジュール参照）

オイルフィルタは運転100時間毎もしくはシーズン毎のいずれか早い時期に交換してください。新しいオイルフィルタのガスケットにきれいなオイルを塗布して取付けてください。手でフィルタアダプタに当たるまでフィルタをねじ込みます。さらに1/2から3/4回転を工具で締め込みます。エンジンを始動し、アイドリング運転してオイル漏れがないか調べます。エンジンを止め、オイルレベルを再度チェックし、必要であれば補給します。



# エンジン

## エアクリーナ

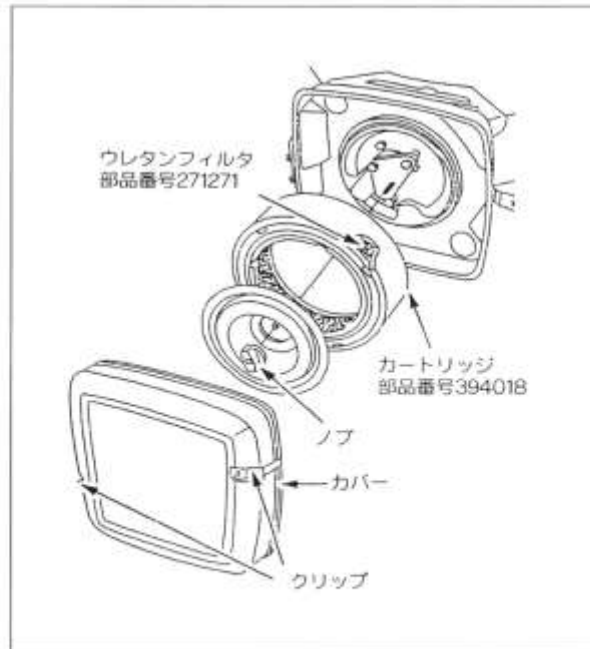


注意

★メンテナンス・スケジュールに従ってお手入れしてください。

1. エアクリーナカバーの両サイドのクリップを外し、カバーを外します。
2. プリクリーナをカートリッジから引抜きます。プリクリーナはせっけん水の中で洗い、乾いた布で水分を取ります。エンジンオイルを若干塗布し、全体にいきわたらせます。余分なオイルは乾いた布で拭取ります。汚れが著しい場合や損傷している場合は交換します。
3. ノブを外し、カートリッジプレートを外します。キャブレター内部にゴミが入らないよう注意しながらカートリッジを外します。

カートリッジは平らな床で軽く叩いてホコリを落とします。オイルは絶対含ませないこと。汚れが著しい場合や損傷している場合は交換する。



注意

★科学洗剤や灯油等でカートリッジを洗浄しないでください。高圧エアをかけての清掃はしないでください。これらはカートリッジの性能劣化となります。

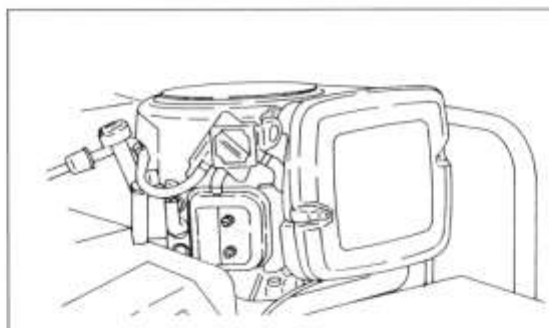
4. カートリッジ、カートリッジプレート、ノブを取付けます。
5. プリクリーナをカートリッジにセットします。
6. カバーを置き、両サイドのクリップをボディにセットします。

52頁のメンテナンス・スケジュールを参照してください。次の運転時間と期間の表示については、いずれか早い時期におこなってください。必要に応じて頻繁にサービスをおこなってください。

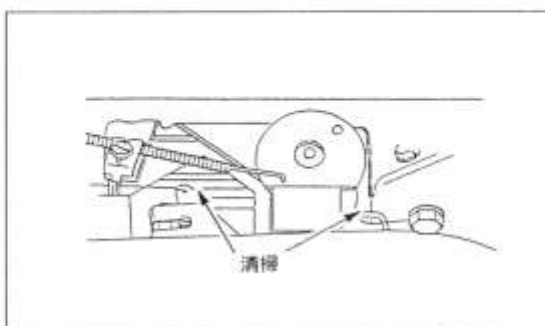
## エンジンの清掃

泥や汚れを布またはブラシで拭取ります。高圧洗浄後による洗浄は燃料システムに混入する恐れがあり、お勧めしません。

導風カバーに付着した草やくず、泥は毎日取除きます。(必要に応じて頻繁に)これにより、オーバーヒートによる損傷を防ぐことができます。



スムーズな操作のために、常にガバナーコントロールやリンケージを清掃し、ゴミの無いようにしてください。



リンケージ、スプリング、コントロール

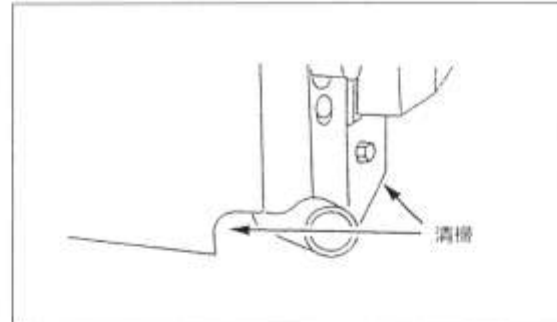
# エンジン



**注意**

★毎日もしくはそれ以上の頻度でエンジン始動前にマフラ周辺部のホコリ・ゴミ・燃えやすい堆積物を取除いてください。

マフラにスパークアレスタ・スクリーンが取り付けられている場合は、取外して点検・清掃をしてください。損傷していればラグ交換してください。



マフラ周辺  
スパークアレスタスクリーン

インライン燃料フィルタはシーズン毎、もしくは必要に応じて早めに交換してください。販売店もしくは、ブリグス ストラトンのサービスセンターにお問い合わせください。



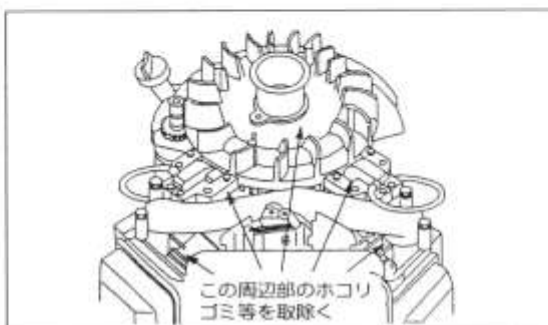
燃料フィルタ



**注意**

★燃料フィルタ交換前に燃料タンクを空にするか燃料コックを閉めてください。

長時間のご使用により、冷却フィンの中にホコリや異物が詰まることがあります。特に草刈機で長い草や牧草等を刈った後に、草が堆積することがあります。この場合オーバーヒートを起こし、損傷する場合があります。プロアハウジングを外し、清掃をしてください。必要に応じて早めにおこなってください。



冷却システム

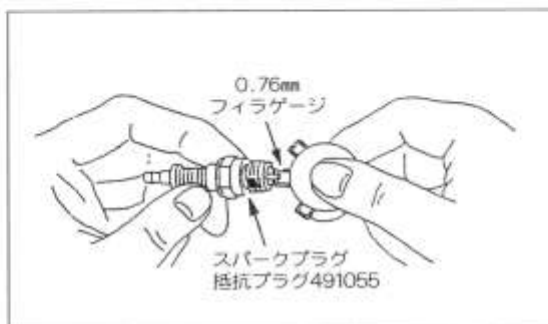
### スパークプラグを外します



**注意**

★部品番号19368のスパークテストを用いてスパークを点検してください。

スパークプラグにワイヤターミナルが十分に取付けられていないとスパークが発生しないことがあります。  
ターミナルをしっかり取付けてください。



スパークプラグ



**注意**

★一部地域では法律によっては電波障害防止のために、抵抗入りスパークプラグの使用が義務づけられていることがあります。  
この場合スパークプラグする際には必ず同じ品番のスパークプラグをご使用ください。

次頁のメンテナンス・スケジュールを参照してください。次の運転時間と期間の表示については、いずれか早い時期におこなってください。必要に応じて頻繁にサービスをおこなってください。

# エンジン

## メンテナンス・スケジュール

以下の表の運転時間と期間の表示については、いずれか早い時期におこなってください。必要に応じて下表の時間にとらわれず、早めにおこなってください。

メンテナンス 項目	作業時毎	運転25時間毎 もしくは毎週	運転50時間毎 もしくは毎月	運転100時間 もしくはシーズン毎	毎年
オイルレベルチェック	●				
オイル交換◆			● 注1		
オイルフィルタ交換◆				●	
エアクリーナ・ブリクレーナの サービス		● 注2			
エアクリーナ・カートリッジへの サービス				● 注2	
スパークアレスタ点検 ( オブション )					
冷却システム清掃				● 注2	
スパークプラグ交換					●
インライン燃料フィルタ交換					●
バルブクリアランス点検					●

◆最初の運転5時間で第1回目の交換を、以降は50時間毎もしくはシーズン毎に交換してください。

注1：重負荷や、高温度の条件下での運転の場合、運転25時間毎に交換してください。

注2：ホコリがひどい条件下での運転では、より頻繁におこなってください。

ブリグス&ストラトン承認サービスディーラーには純正部品を在庫しております。  
 純正以外の部品を使用したばあい、保証の対象外となります。

代表的な純正B&Sエンジンパーツ	
	B & S 部品番号
エアクリーナ・カートリッジ	394018
エアクリーナ・ブリクリーナ	271271
抵抗入りスパークプラグ (チャンピオンRC12YC)	491055
スパークプラグエルボ	805529
スパークプラグレンチ	19374
スパークテスタ	19368
オイルフィルタ (ショートタイプ)	492932
オイルフィルタ (ロングタイプ)	491056
燃料フィルタ (燃料ポンプ付)	493629
燃料フィルタ (燃料ポンプなし)	298090





# エンジン

## 配線図

